

継続的な改善活動のために！

2008

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書（抜粋）]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 石川 憲一

周知のように、'70年代を境目として我が国における大学を始めとする高等教育は大きく変化し、最近に至ると修学年齢世代の約50%が大学・短大へと進学する所謂「大学教育のユニバーサル化現象」が生じてきております。このような状況は一面においては、資源小国である我が国にとって人材と言う『財』を然るべく育成し、国民の知的水準を向上することは望ましいことではありますが、一方では卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。

金沢工業大学は、開学以来43年の歴史を着実に刻み、'08年4月より工学部、環境・建築学部、バイオ・化学部、情報学部から成る4学部14学科体制を有する理工系総合大学に移行いたしました。このような展開の中にあって、'95年度以来実践して参りました教育改革の成果の内、外部評価の一環として'02年度には機械系並びに材料系、'03年度には環境系並びに建築系の教育プログラムに対して『日本技術者教育認定機構：JABEE』の認定を受け、加えて'04年度に大学基準協会が実施した認証評価にて「基準に適合」との認定を受けることが出来ました。これからは、全ての教育プログラムのJABEE認定を目指すと共に、日本経営品質賞等の視点やメジャーの異なる外部評価を受ける予定であります。そして、'03年度に文部科学省が実施いたしました『特色ある大学教育支援プログラム：GP』に「工学設計教育とその課外活動環境」が採択されたことを受けて、更に本学教育改革を推進させるために、'96年並びに'02～'07年に引き続いて在学生・卒業生・教職員の各位に対して8種類のアンケートを依頼致しました。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、衷心より感謝申し上げる次第であります。

目次

本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

< 1 >	本調査の全体像	1
< 2 >	KITの満足度と分野別満足度	5
< 3 >	昨年の満足度との比較	19
< 4 >	分野別の詳細分析	29
< 5 >	ポートフォリオシステムの評価に関して	45
< 6 >	サービスや機能に関して	53
< 7 >	KIT - IDEALSに関して	79
< 8 >	人材の能力に関して	87
< 9 >	勉強への取り組み姿勢と授業満足度の指標による分析	95
< 10 >	新入生アンケートの分析結果	101
< 11 >	教職員アンケートの分析結果	119
< 12 >	全体サマリー	131
< 13 >	フリーアンサー集	149
< 14 >	調査票見本	325

< 1-1 > 調査の目的と概略

調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在学生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価、満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- そして、上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 設問に関してはできるだけ属性間の差を少なくして、比較分析が行いやすいように調査設計の見直しを行った。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が6回目となる。その節目として今回は分析の視点を少し変え、定量的なデータは直感的に分かりやすく集計し、自由記述などの定性的なデータからはより具体的な方策が導き出せるような内容とした。

調査方法

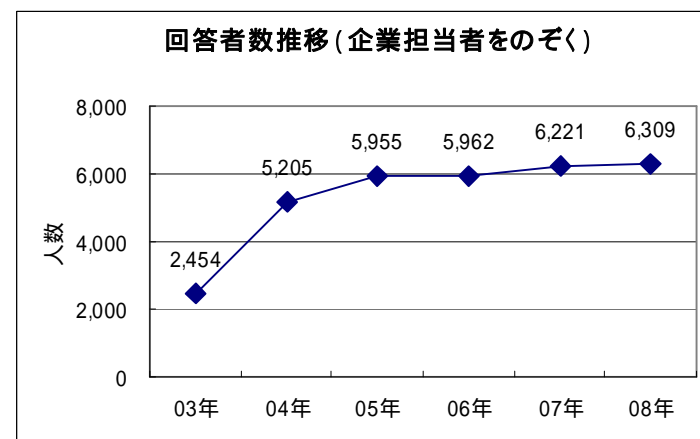
調査時期 2008年2月～4月

調査方法 下記のように属性に応じて回収ボックスによる回収と郵送による回収によって実施した。
なお、全て『無記名式』とした。

回収数 属性別の回収数は下記の通りである。2005年の調査より、在学生への調査期間を年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
今回の全回収数は6,309サンプル

調査主体 学校法人 金沢工業大学

集計分析 (有)アイ・ポイント

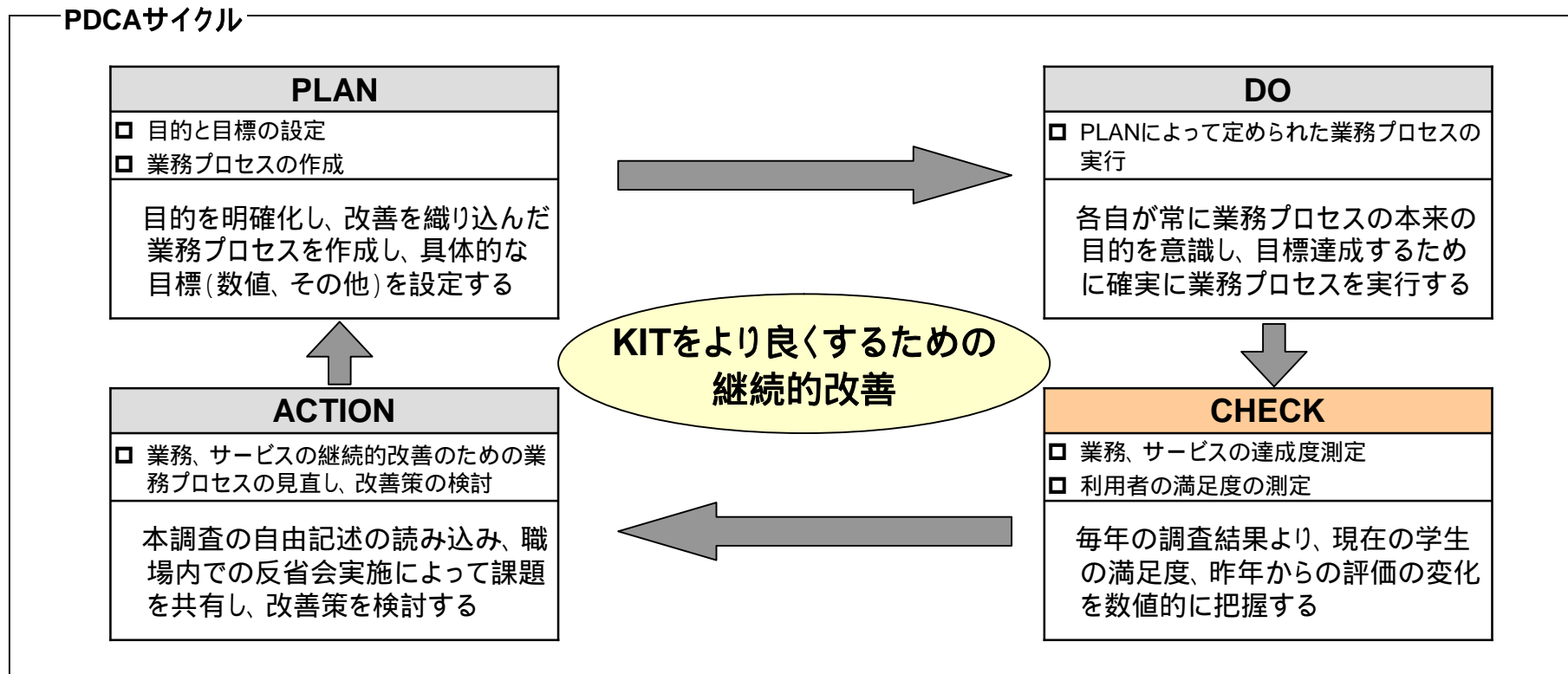


調査対象

対象者	調査時点での属性	03年 回収数	04年 回収数	05年 回収数	06年 回収数	07年 回収数	08年 回収数	調査実施方法	備考
新入生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	オリエンテーションで配布、回収ボックスで回収	08年より新学科体制で集計
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	担当教員より配布、各クラスで回収	08年より共通学科で集計
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	担当教員より配布、各クラスで回収	
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	担当教員より配布、回収ボックスで回収	
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	研究室単位で配布、回収ボックスで回収	
卒業・修了生	平成16年度卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	郵送にて配布、返信用封筒で郵送による回収	入社後1年の卒業生
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	個別に配布、回収ボックスで回収	
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	個別に配布、回収ボックスで回収	
企業担当者	KIT卒業生が就職した企業	実施せず	実施せず	485	実施せず	実施せず	実施せず		08年10月実施予定
合計		2,454	5,205	6,440	5,962	6,221	6,309		

PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

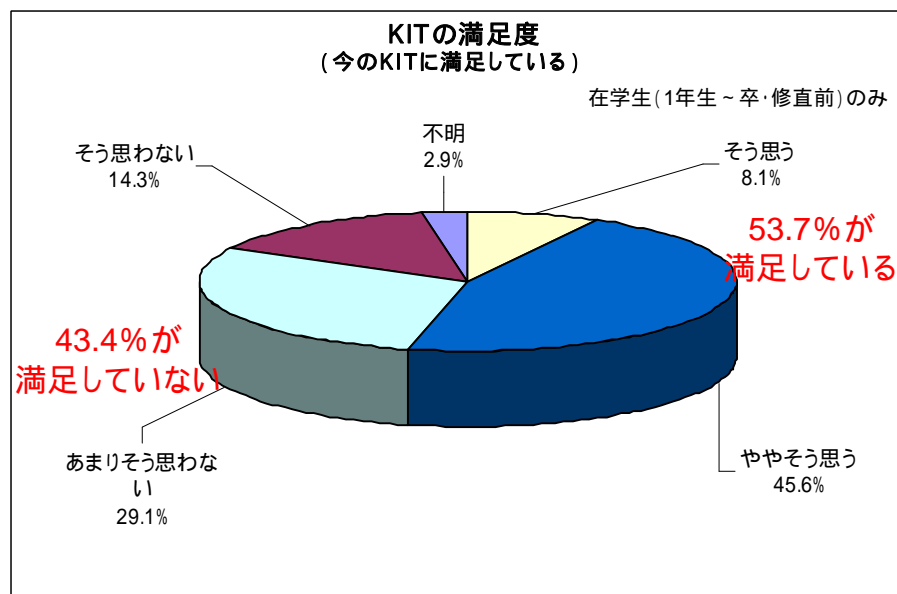
本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか？」「自らが設定した目標は達成したのか？」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには、巻末の「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

< 2-1 > KITの満足度

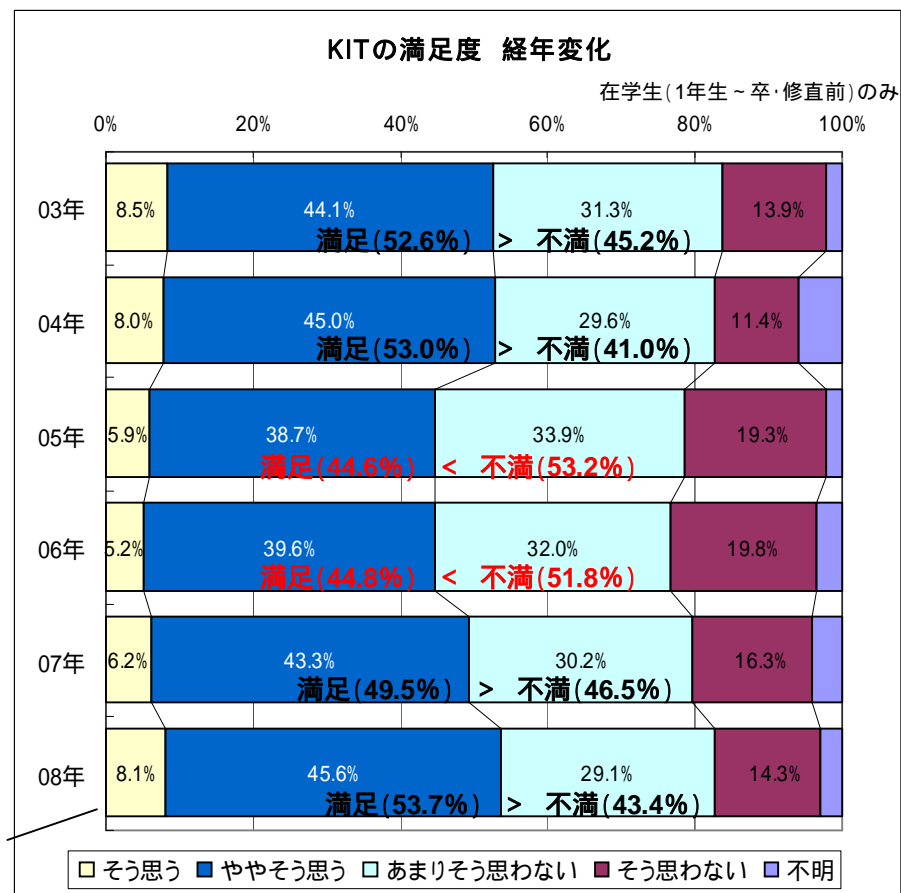
- 「KITの満足度」に関しては「そう思う」と「ややそう思う」を合計すると53.7%が「満足」と答えており、「不満」の43.4%を10.3ポイント上回っていた。
- 経年変化を見ると、05年、06年は「不満」と答えた層の方が多かったが、07年には逆転して「満足」の方が3ポイント多く、今回はその差が広がり10.3ポイントになっており、徐々に満足度が上がってきていると言える。
- 調査開始の03年から見ても、「満足」の割合は04年の53.0%を超えて最も多くなっており、良い状態にあると言える。ただし、4割以上の学生が不満を持っていることは大きな課題であり、更に改善していく必要がある。



満足(53.7%) > 不満(43.4%)

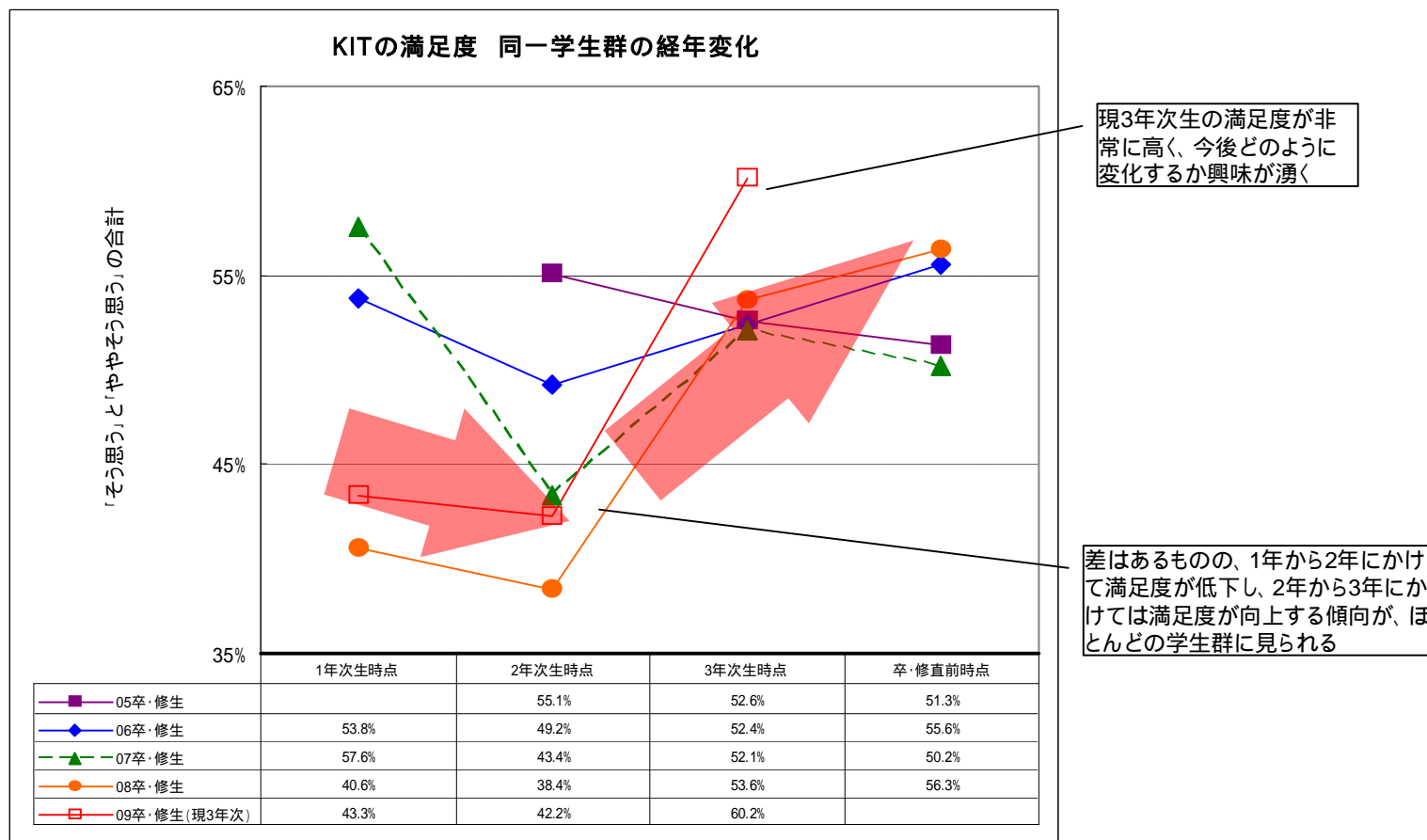
「満足」が「不満」を10ポイント以上、上回った

「満足」の割合は今までで最も高い



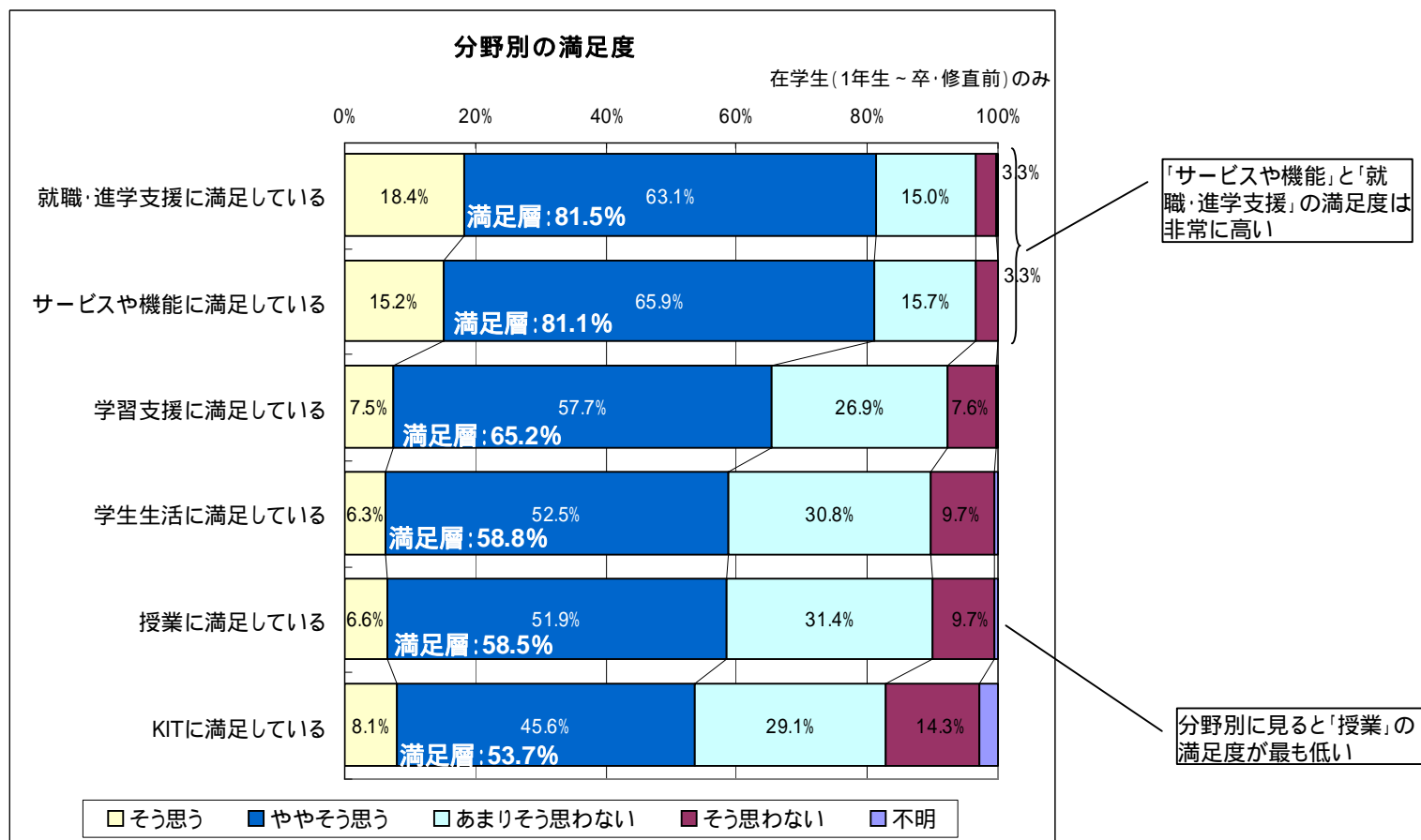
< 2-4 > KITの満足度 同一学生群の経年変化

- 先に見たように学年毎の満足度の比較では、「3年次生」が高く「2年次生」が低いという傾向が見られたが、学生の満足度は入学年度による学生群によっても変わると思われるため、同一学生群の満足層の割合で比較を行った。
- 満足度の大きな変化としては、「1年次生」から「2年次生」に向けてはどの学生群でも満足度の低下を見ることができる。「2年次生」から「3年次生」に向けては一部の例外はあるものの満足度は向上しており、「3年次生」から「卒業・修了直前」にかけては学生群によって上がるケースと下がるケースに分かれることが確認できた。しかしこの変化は少なかった。
- これを見ると、最も大きな課題は「1年次生」から「2年次生」にかけての満足度の低下であり、これを少しでもくい止めることで大学生活を通しての満足度を上げることができるのではないかと思われる。また、ここには現れていないが「新入生」から「1年次生(の終了時点)」にかけての満足度の低下にも注目していく必要があると言える。
- 今回の「卒業・修了生」は「1年次生」の段階での満足度は低かったが、「2年次生」から「3年次生」にかけての向上が非常に大きい点が特徴であった。また、現在の「3年次生」も「2年次生」から「3年次生」にかけての向上が非常に大きく、ここ2年間は非常に良い状態にあると言える。



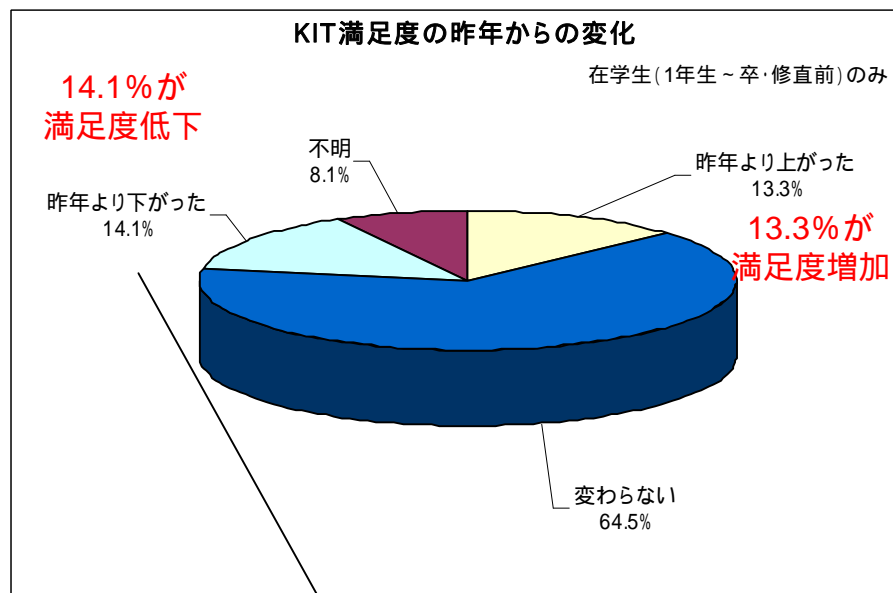
< 2-5 > 分野別の満足度

- 大学の主な機能の満足度だけを抽出して比較すると下記のようになった。
- 最も満足度が高かったのは「就職・進学支援」であり、81.5%が「満足」と答えていた。この質問は「3年次生」と「卒業・修了直前」だけに聞いたものであるが、非常に満足度が高いと言える。また、「サービスや機能」に関しても81.1%が「満足」と答えており、この2点はそれほど大きな課題がないものと思われる。
- 上記に次いで「学習支援」では65.2%が満足しており、「学生生活」「授業」と続いていたが、大学の中心機能である「授業」と「学習支援」において3～4割の学生が不満を持っているという点は非常に残念であり、今後この満足度を上げることが大きな課題になると言える。
- 「学生生活」においても4割が不満を持っていた。この改善は大学側だけでできるものではないが、不満の要素をしっかりと把握し、学生をサポートすることも重要と言える。



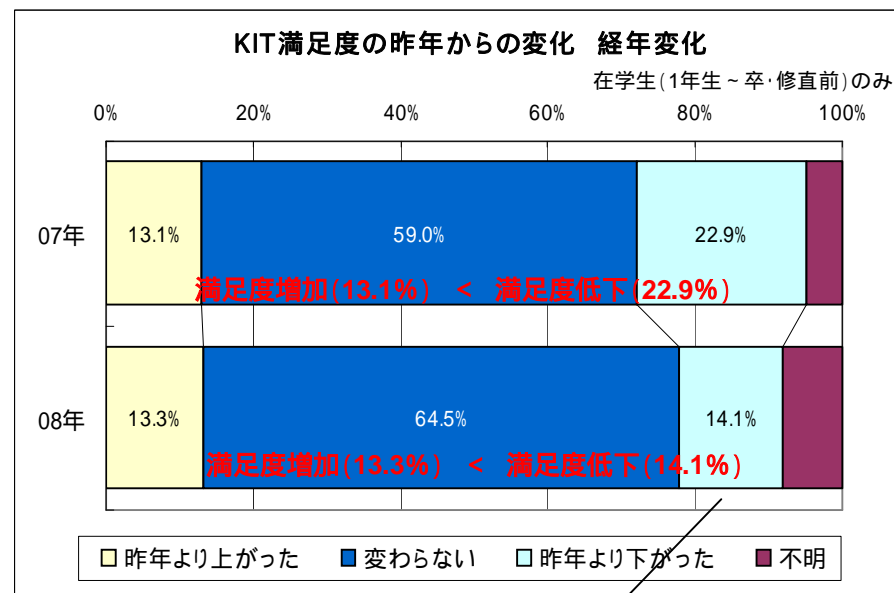
< 3-1 > KIT満足度の昨年からの変化

- 前回より「昨年からの満足度変化」を聞いているが、今回は満足度が「昨年より上がった」が13.3%、「昨年より下がった」が14.1%と、満足度が昨年より低下したという意見の方がわずかではあるが多かった。
- 前回の結果と比較すると「昨年より上がった」は前回とほぼ同じであったが、「昨年より下がった」は前回の22.9%から14.1%へ8.8ポイント減少しており、「変わらない」が5.5ポイント増加する結果となった。
- これらを見ると、満足度としては良くはなっていないものの、昨年と同程度と評価する意見が増加し、悪くはなっていないと言える。
- 前章で見た「満足度」の経年変化では、KITの満足度は明らかに前年よりも上がっていたが、ここでは「下がってはいないが変わらない」層が増えており、上がっているという傾向は見られなかった。全く正反対ではないものの食い違いが見られる。実態としては「昨年と満足度が変わっているとは思わないが、評価をする際に昨年より良い評価をしている」といった状態であり、決して悪い状態ではないと言える。



残念ながら「昨年より満足度が下がった」と答えた割合の方が多かった

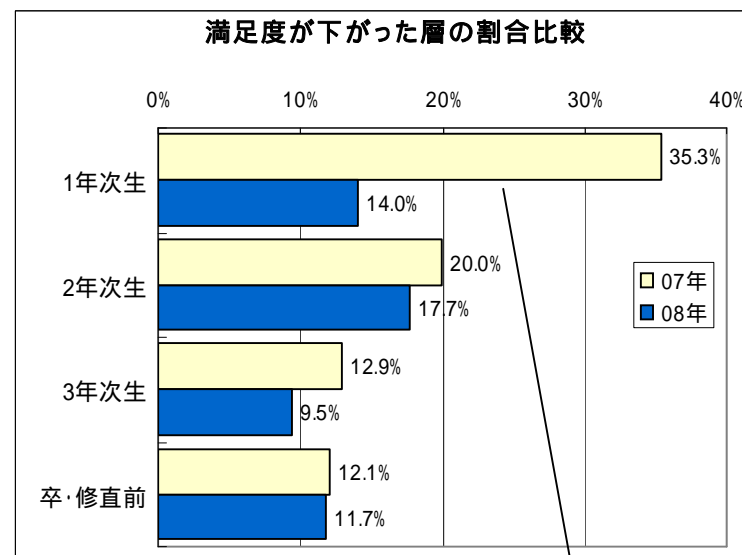
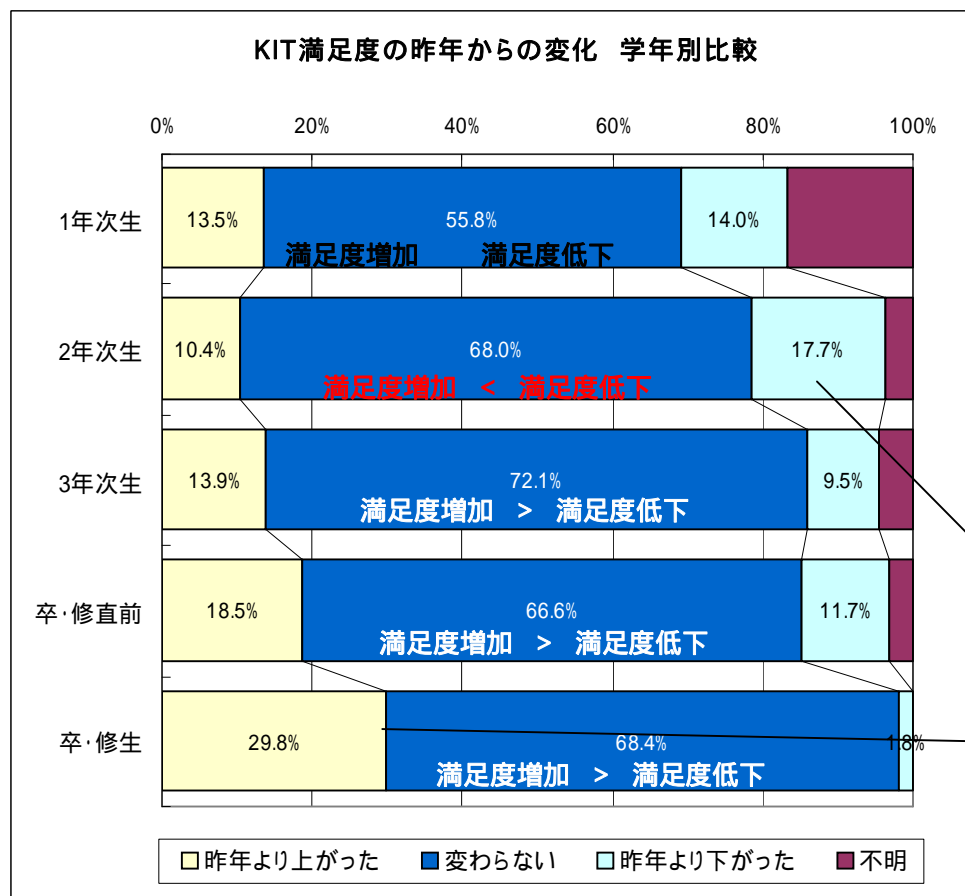
満足度増加(13.3%) < 満足度低下(14.1%)



前年は22.9%が「満足度が低下した」と答えていたが、今回は14.1%にとどまった

< 3-2 > KIT満足度の昨年からの変化 学年別比較

- 昨年からの変化を学年毎に比較した。1年次生は入学前の期待との比較として聞いているが、「昨年より上がった」と「昨年より下がった」はほぼ同数であり、55.8%は「変わらない(期待とほぼ同じ)」と答えていた。1年次生には答えにくかったためか「不明」が多かったが、「昨年より下がった(期待はずれだった)」が14.0%あり、この期待はずれの内容をしっかりと把握し、改善につなげることが大学への信頼感を強め、その後の学生生活の満足度向上につながるものと思われる。
- 他の学年を見ると、2年次生は「昨年より下がった」という意見が多く、1年次生の時の満足度よりも2年次生の時の満足度が低かったということになる。そして、3年次生、卒・修直前(4年次生)は各々前の学年の時よりも満足度は向上していると答えており、面白さを見いだしているものと思われる。
- そして、卒・修生は卒業後に学生時代に感じていた以上の満足度を感じており、厳しい授業を受け、努力して良かったと感じているものと思われる。今後はこのような卒・修生の気持ちを在學生に伝えていくことで、やりがいを感じさせることができるのではないかとと思われる。
- 全体の結果では「昨年より下がった」が減少していたことが確認できたので、その要因を探るため学年毎に「昨年より下がった」だけを比較してみた。それによると「1年次生」の差が非常に大きく、昨年の1年次生が大きな期待はずれを感じていたことが分かる。



2年次生で昨年より下がったと感じる学生が多い

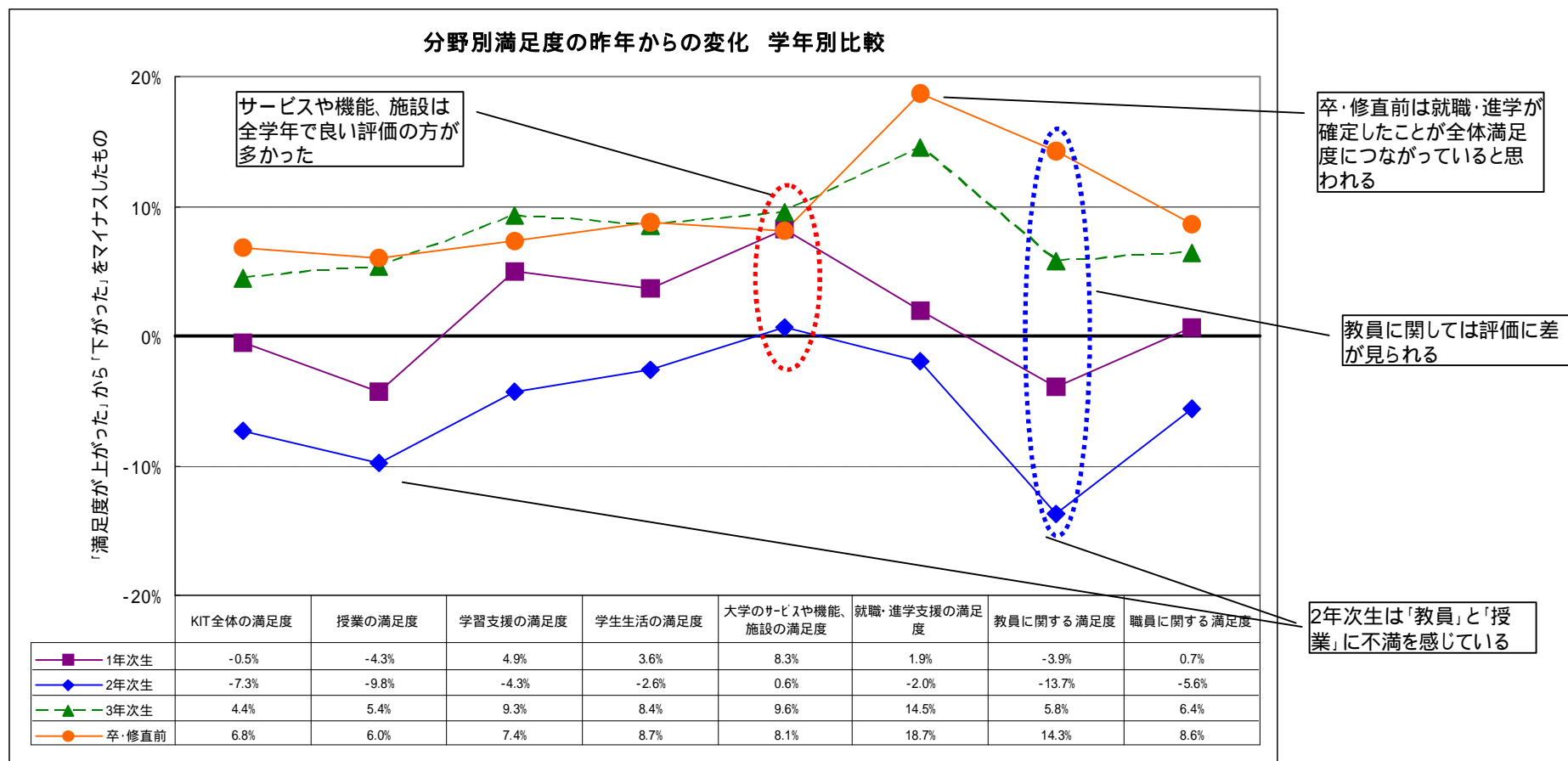
卒業後に満足度が上がったと感じている学生が多い

07年の1年次生は入学前の期待を下回っているという回答が多かった。

1年生には「入学前の期待と比較して」と但し書きを書くべきところであったが、その文言が抜けたため無回答が多かったものと思われる。

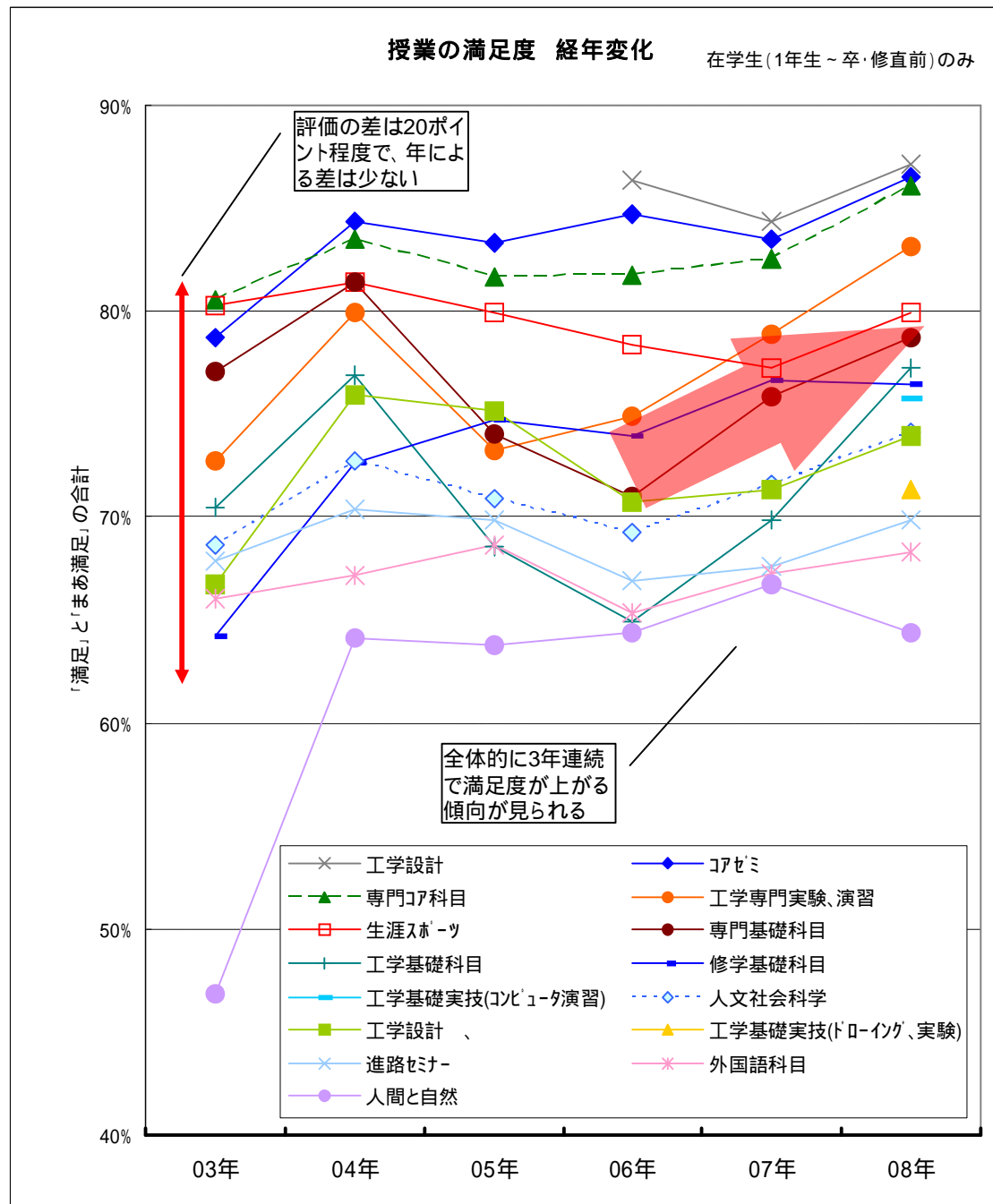
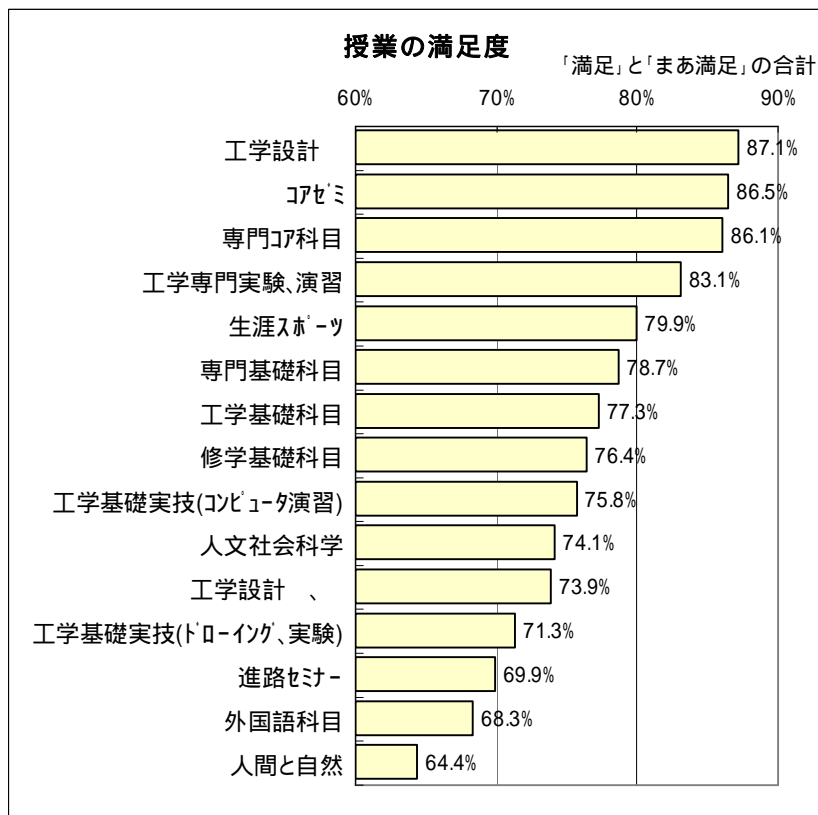
< 3-5 > 分野別満足の昨年からの変化 学年別比較

- 分野別満足度の昨年からの変化を学年別に見た。ここでは「昨年より満足度が上がった」から「下がった」をマイナスしているため、正数となっているものは昨年より満足度が上がっており、負数は下がったということになる。
- 全ての分野で昨年より満足度が上がった(正数)となっていた学年は「3年次生」と「卒・修直前」であった。特に「卒・修直前」は「就職・進学支援の満足度」が高く、おそらく1年前には不安を感じていたものの最終的に就職・進学が確定した安心感から、昨年より満足度が向上したものと思われる。
- 学年による差が小さかったのは「大学のサービスや機能、施設の満足度」であった。「2年次生」はやや低めであるが、この分野は学年による差が出にくいものと思われる。
- 一方、学年による差が大きかったのは「教員に関する満足度」であり、「2年次生」の低さと「卒・修直前」の高さが目立っていた。教員に対しての「1年次生」の満足度は入学前の期待を下回っており、「2年次生」でも前年より低下していると答えていた。教員に対する満足度は「授業」や「学習支援」に強く影響し、結局は「KITの満足度」にも影響していることが考えられるため、大きな課題としてしっかりと取り組む必要があると言える。



< 4-1 > 科目別の満足度

- 授業の科目別に「満足」と「まあ満足」の合計を見ると、最も満足度が高いのは「工学設計」であり、87.1%が満足しており、次いで「コアゼミ」「専門コア科目」と続いていた。
- 満足度が最も低かったのは「人間と自然」であり、満足という意見は64.4%であった。そして「外国語科目」「進路セミナー」の満足度も低めであった。
- 経年変化を見ると「修学基礎科目」と「人間と自然」の2科目以外は全て昨年より満足度が上がっており、多くの授業で06年より継続的に満足度が向上していた。
- 特に目立ったのは「工学基礎科目」の満足度の向上であり、「専門基礎科目」「工学専門実験、演習」も年々満足度が向上していた。



- 授業の満足度を高いものから並べ、年度別に比較を行った。
- 最も満足度の高い「工学設計」は06年から聞いているが、満足度は常に最も高く、「コアゼミ」「専門コア科目」を加えた3科目の満足度が常に高かった。
- 調査開始当初は「生涯スポーツ」の満足度が高かったが、徐々に低下してきており、その代わり上記の3科目や「工学専門実験、演習」を加えた「専門系」の科目の満足度が上位にきていた。
- 前項でも見たが「工学基礎科目」は05年～07年の満足度は非常に低かったが、08年には一気に上がってきており、何らかの対応がなされたものと思われる。
- 前回、満足度が最も低かった「工学基礎実験」は製図系の授業と一緒に、「工学基礎実技(ドローイング、実験)」となったが、その評価は今回、下位から4番目となっていた。
- 全体的に「専門系」の授業の満足度が高めであり、授業の改善に力が入っているものと思われる。

授業の満足度 年別の満足度順位

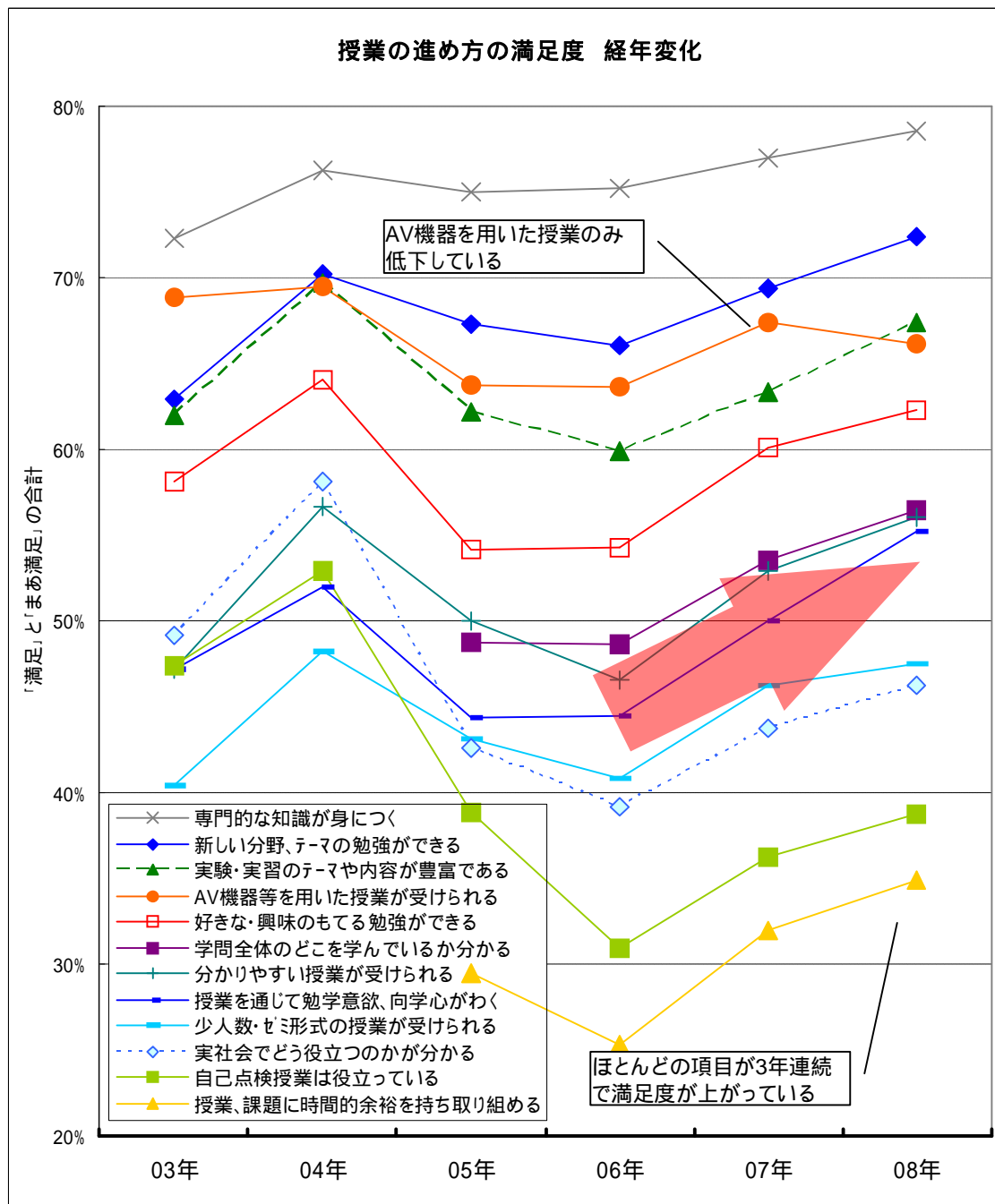
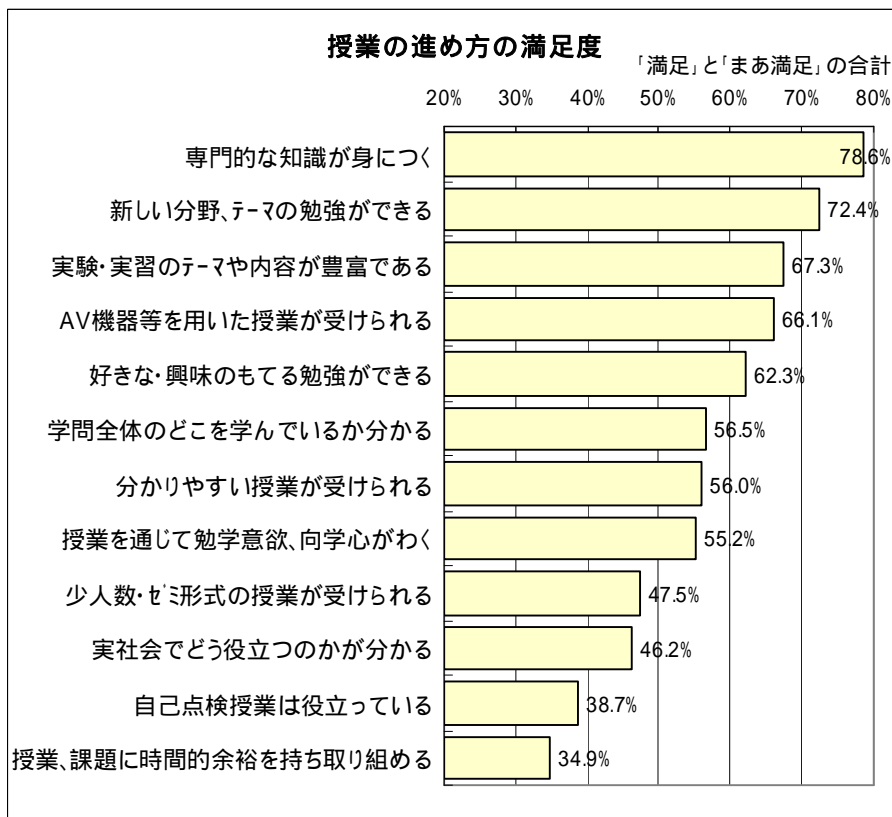
専門科目に着色

順位	03年	04年	05年	06年	07年	08年
1	専門コア科目	コアゼミ	コアゼミ	工学設計	工学設計	工学設計
2	生涯スポーツ	専門コア科目	専門コア科目	コアゼミ	コアゼミ	コアゼミ
3	コアゼミ	生涯スポーツ	生涯スポーツ	専門コア科目	専門コア科目	専門コア科目
4	専門基礎科目	専門基礎科目	工学設計、	生涯スポーツ	工学専門実験、演習	工学専門実験、演習
5	コンピュータ演習	工学専門実験、演習	修学基礎(旧セミナー類)	工学専門実験、演習	生涯スポーツ	生涯スポーツ
6	工学専門実験、演習	工学基礎科目	専門基礎科目	修学基礎(旧セミナー類)	修学基礎(旧セミナー類)	専門基礎科目
7	工学基礎科目	工学設計、	工学専門実験、演習	専門基礎科目	専門基礎科目	工学基礎科目
8	人間と文化・社会・科学	人間と文化・社会・科学	コンピュータ演習	工学設計、	コンピュータ演習	修学基礎科目
9	進路セミナー	修学基礎(旧セミナー類)	人間と文化・社会・科学	コンピュータ演習	人間と文化・社会・科学	工学基礎実技(コンピュータ演習)
10	工学基礎実験	工学基礎実験	進路セミナー	人間と文化・社会・科学	工学設計、	人文社会科学
11	工学設計、	コンピュータ演習	製図、設計関連の演習	製図、設計関連の演習	製図、設計関連の演習	工学設計、
12	外国語科目	進路セミナー	外国語科目	進路セミナー	工学基礎科目	工学基礎実技(ドローイング、実験)
13	修学基礎(旧セミナー類)	製図、設計関連の演習	工学基礎科目	外国語科目	進路セミナー	進路セミナー
14	製図、設計関連の演習	外国語科目	工学基礎実験	工学基礎科目	外国語科目	外国語科目
15	人間と自然	人間と自然	人間と自然	人間と自然	人間と自然	人間と自然
16				工学基礎実験	工学基礎実験	

・「工学基礎実技(コンピュータ演習)」と「工学基礎実技(ドローイング、実験)」は今回から加わった項目
 ・「コンピュータ演習」「工学基礎実験」「製図、設計関連の演習」が上記の2科目に統合されている

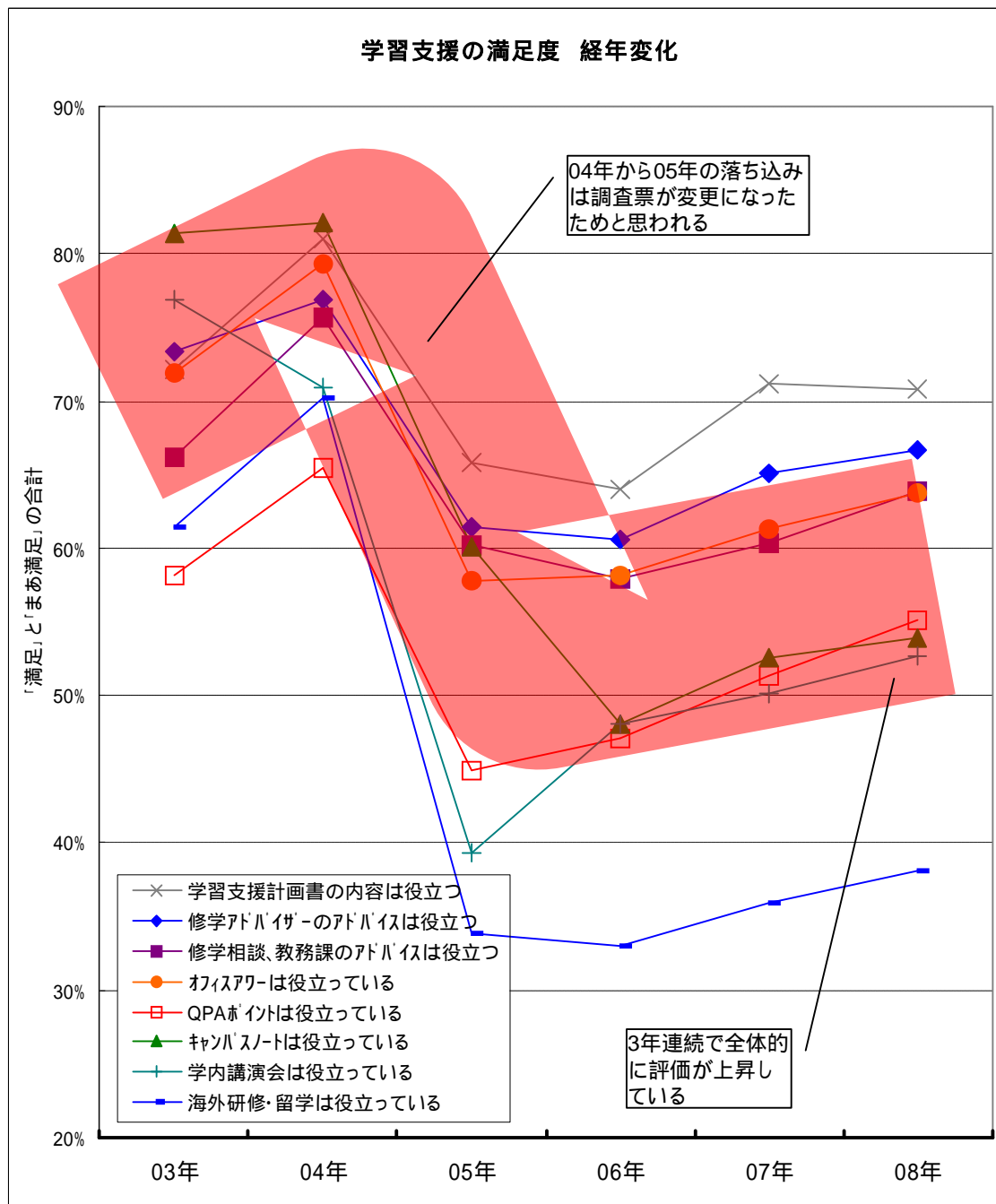
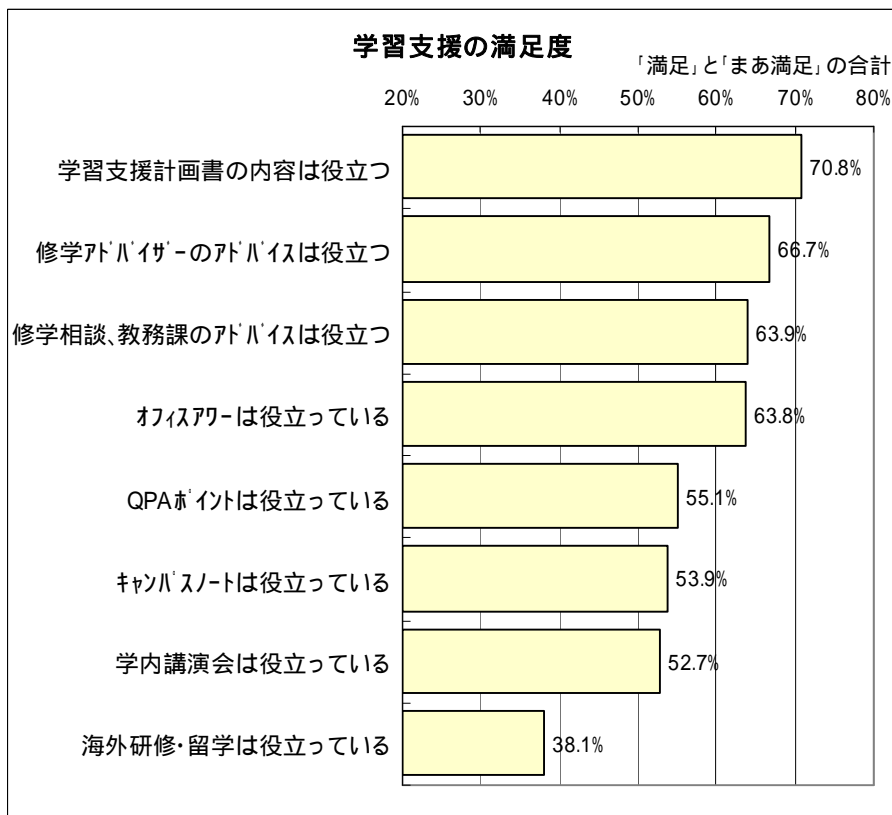
< 4-2 > 授業の進め方の満足度

- 授業の進め方としては、78.6%の学生が「専門的な知識が身につく」と感じていた。次いで「新しい分野、テーマの勉強ができる」「実験・実習のテーマや内容が豊富である」の満足度が高く、前項で見た「専門系の授業の満足度が高い点」と一致する結果となっていた。
- 満足度が低いのは「授業、課題に時間的余裕を持ち取り組める」であり、時間的に余裕がないと感じているようであった。
- 経年変化では、他の指標と同様に全体的に06年から満足度が向上する傾向が見られた。
- 「AV機器等を用いた授業が受けられる」だけは07年より満足度が下がっていたが、他の項目の満足度は継続的に向上しており、良い状況にあると言える。



< 4-3 > 学習支援の満足度

- 学習支援で最も満足度が高かったのは「学習支援計画書」であり、70.8%が満足と答えていた。
- 次いで「修学アドバイザー」「修学相談、教務課」と続いており、満足度の低いものは「海外研修・留学」「学内講演会」「キャンパスノート」であった。
- 経年変化を見ると、ここでも他の指標と同様に06年から継続的に満足度が向上している。トップの「学習支援計画書」だけがわずかに低下しているが、それ以外は全て向上しており、学習支援も良い状況になってきていると言える。



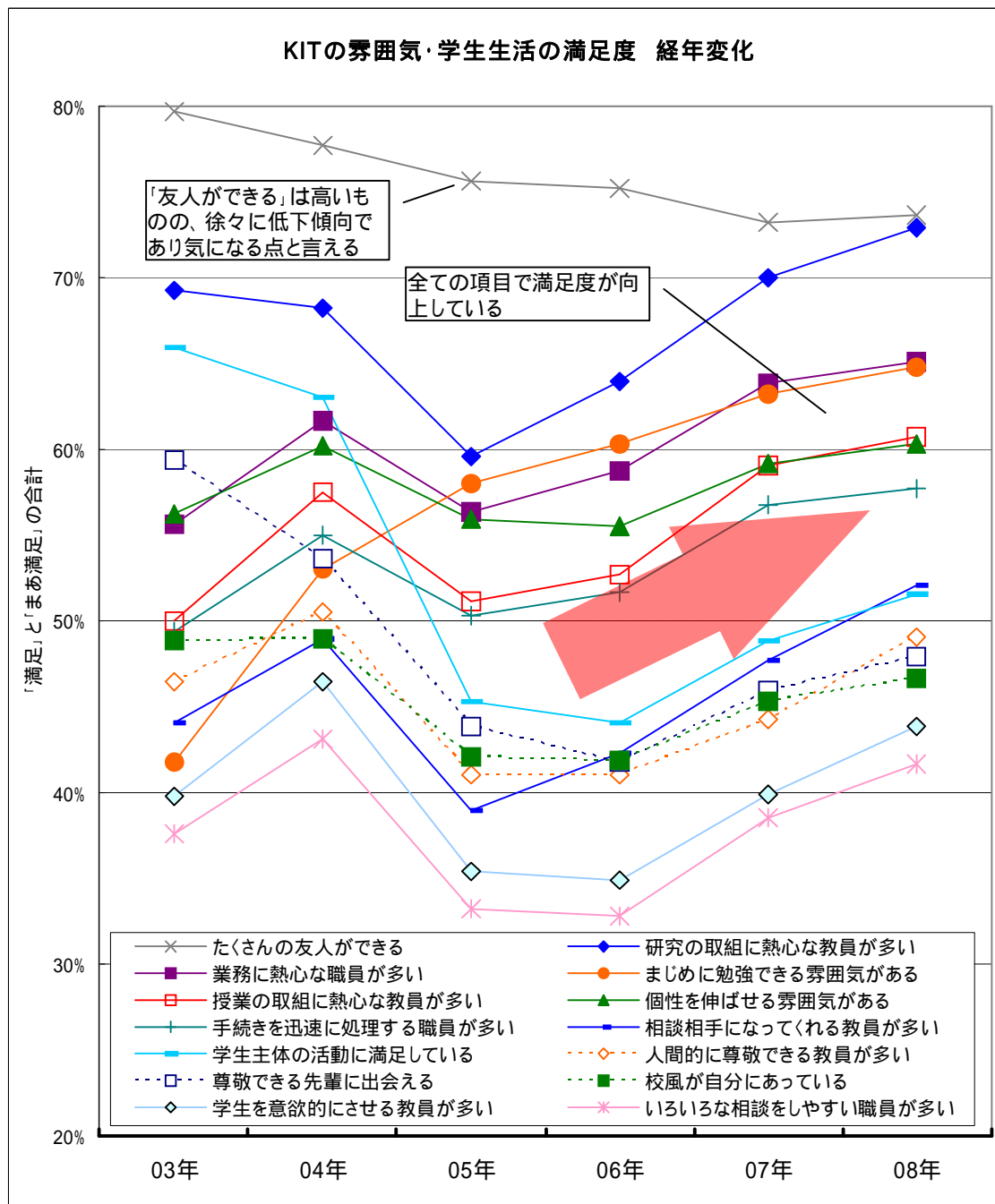
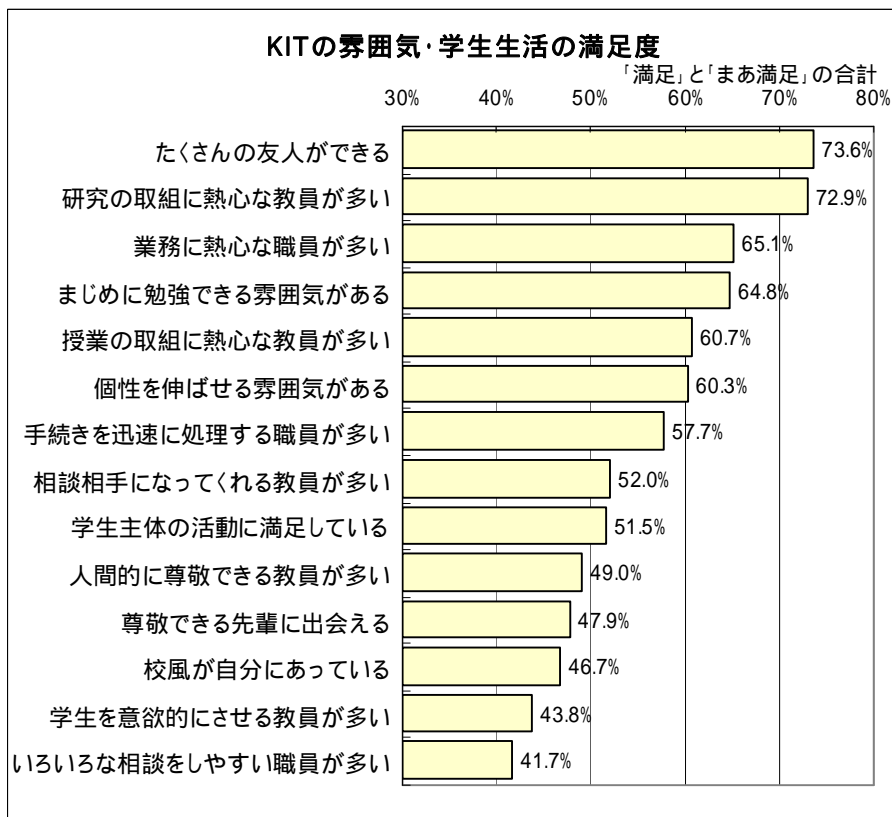
- 学習支援の満足度の順位を年別に見ると、上位の2つは05年から固定しており、「学習支援計画書」と「修学アドバイザー」は学生に常に高く評価され、利用されていることが分かる。
- 03年、04年には「キャンパスノート」の満足度が高かったが、05年から順位は下がっている。「学内講演会」も03年には満足度が高かったが、04年から順位が低下している。
- 「海外研修・留学」は参加者が限られるためにこのような評価となっているものと思われる。

学習支援の満足度 年別の満足度順位

順位	03年	04年	05年	06年	07年	08年
1	キャンパスノートは役立っている	キャンパスノートは役立っている	学習支援計画書の内容は役立つ	学習支援計画書の内容は役立つ	学習支援計画書の内容は役立つ	学習支援計画書の内容は役立つ
2	学内講演会は役立っている	学習支援計画書の内容は役立つ	修学アドバイザーのアドバイスは役立つ	修学アドバイザーのアドバイスは役立つ	修学アドバイザーのアドバイスは役立つ	修学アドバイザーのアドバイスは役立つ
3	修学アドバイザーのアドバイスは役立つ	オフィサーは役立っている	修学相談、教務課のアドバイスは役立つ	オフィサーは役立っている	オフィサーは役立っている	修学相談、教務課のアドバイスは役立つ
4	学習支援計画書の内容は役立つ	修学アドバイザーのアドバイスは役立つ	キャンパスノートは役立っている	修学相談、教務課のアドバイスは役立つ	修学相談、教務課のアドバイスは役立つ	オフィサーは役立っている
5	オフィサーは役立っている	修学相談、教務課のアドバイスは役立つ	オフィサーは役立っている	学内講演会は役立っている	キャンパスノートは役立っている	QPAポイントは役立っている
6	修学相談、教務課のアドバイスは役立つ	学内講演会は役立っている	QPAポイントは役立っている	キャンパスノートは役立っている	QPAポイントは役立っている	キャンパスノートは役立っている
7	海外研修・留学は役立っている	海外研修・留学は役立っている	学内講演会は役立っている	QPAポイントは役立っている	学内講演会は役立っている	学内講演会は役立っている
8	QPAポイントは役立っている	QPAポイントは役立っている	海外研修・留学は役立っている	海外研修・留学は役立っている	海外研修・留学は役立っている	海外研修・留学は役立っている

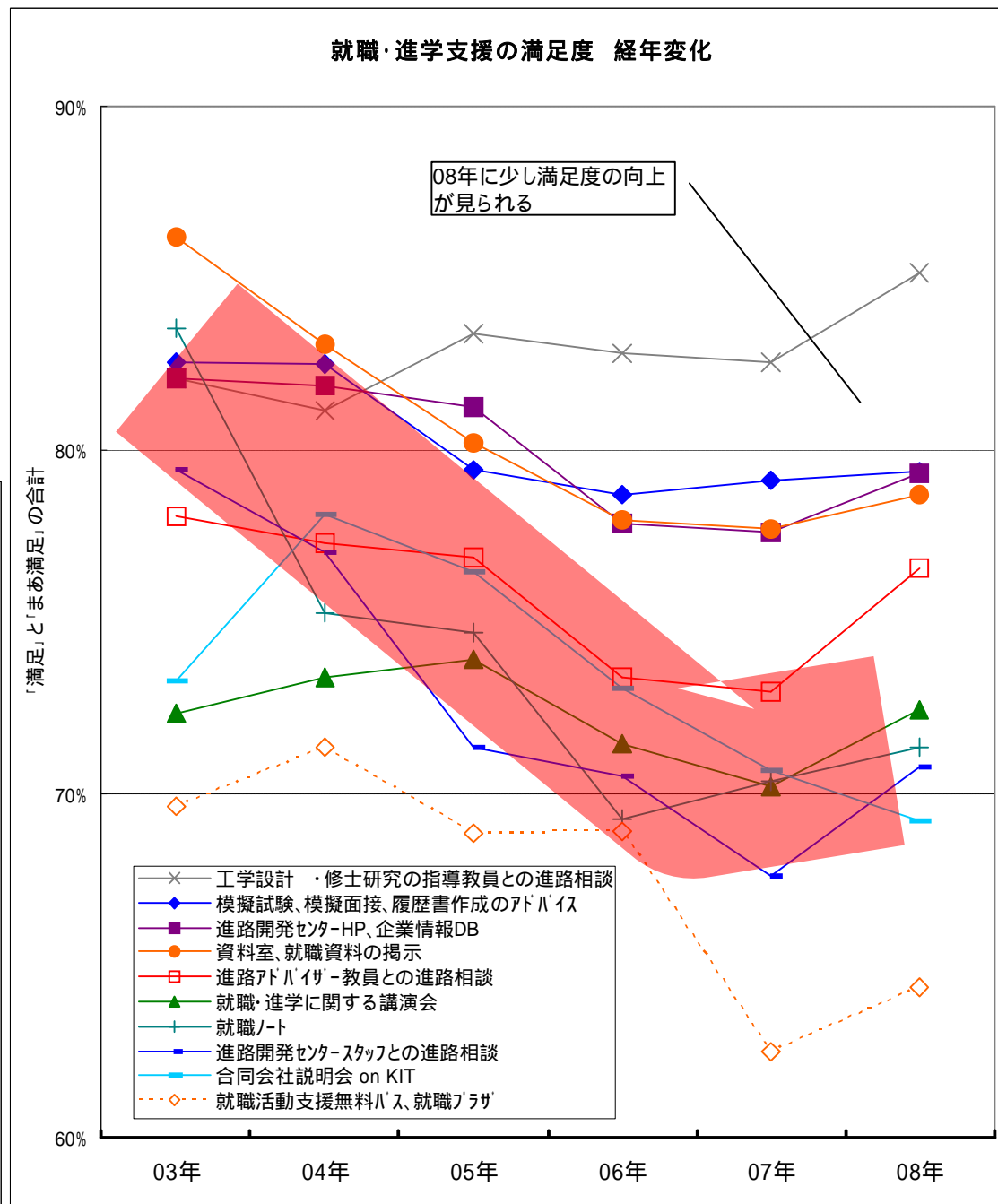
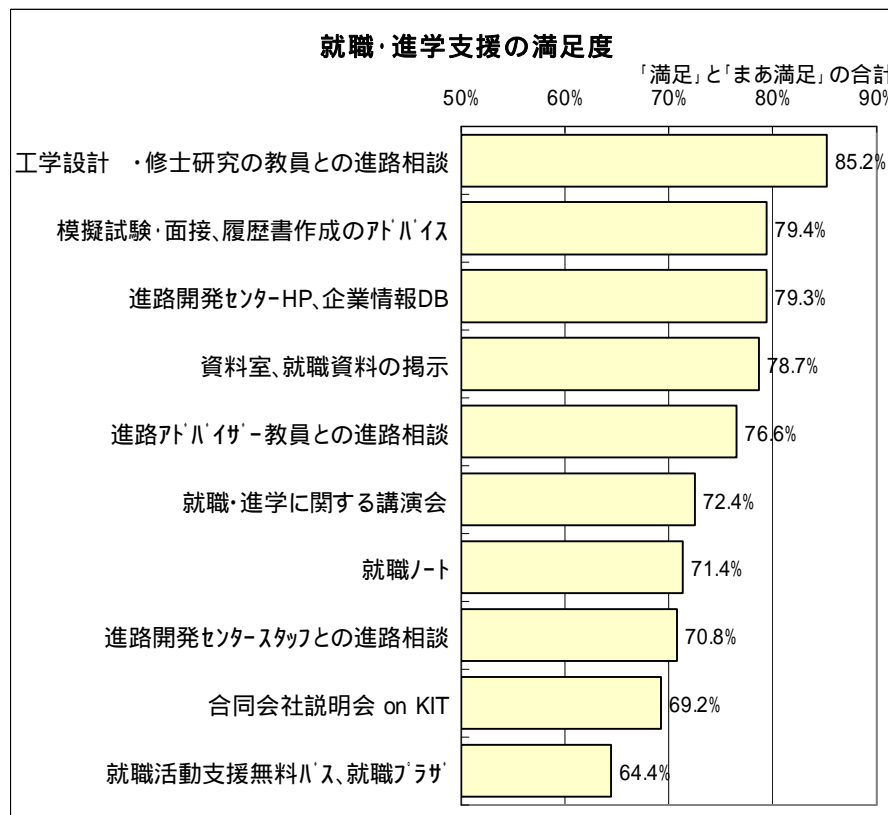
< 4-4 > 学生生活の満足度

- 学生生活で最も満足度が高いのは「たくさんの友人ができる」であり良好な状態だと思われるが、経年変化で見ると徐々に満足度が低下しており、気になる点である。
- 次いで「研究の取り組みに熱心な教員が多い」「業務に熱心な職員が多い」といった、教職員に対する評価が続いていた。しかし、満足度が低いものとして「いろいろな相談をしやすい職員が多い」「学生を意欲的にさせる教員が多い」が挙げられており、職務には熱心であると評価はするものの、不満も感じているようであった。
- 経年変化では前出の「たくさんの友人ができる」以外は06年頃から満足度が向上してきており、教職員の評価や大学の雰囲気は良くなってきていると言える。



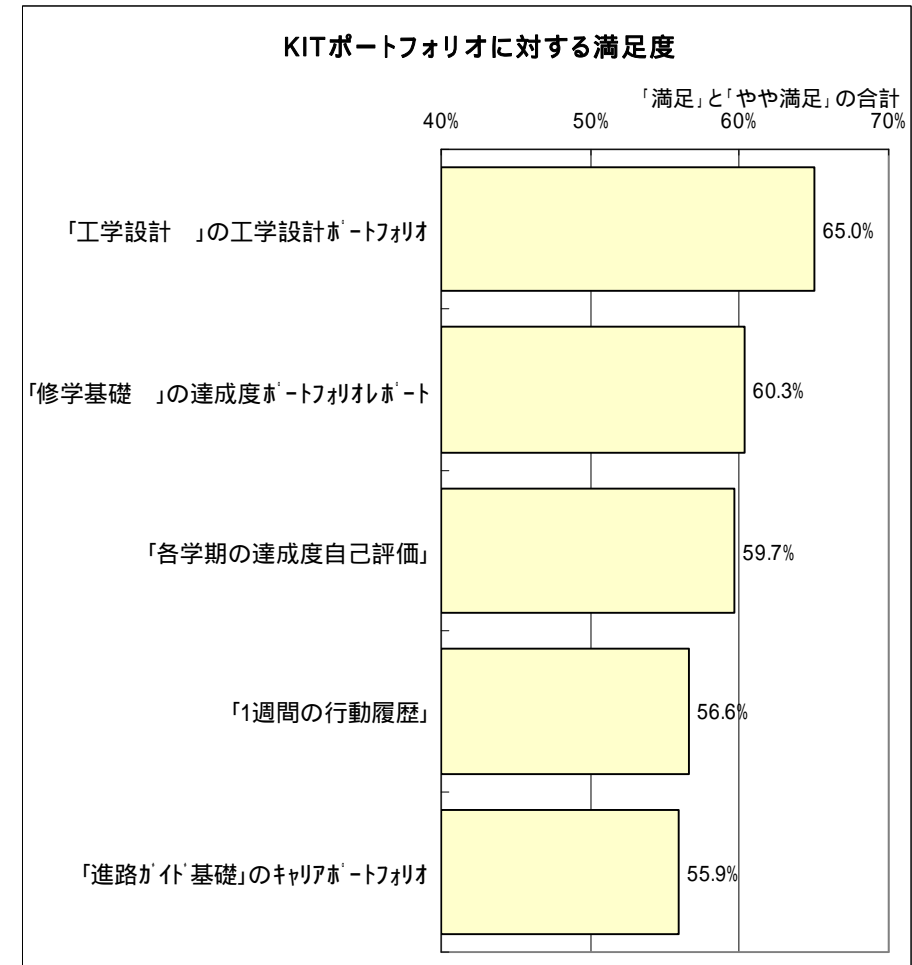
< 4-5 > 就職・進学支援の満足度

- 就職・進学支援は「3年次生」と「卒・修直前」に聞いたものであるが、最も満足度が高かったのは「工学設計・修士研究の教員との進路相談」であり、85.2%が満足していた。
- 満足度が最も低かったのは「就職活動支援無料バス、就職プラザ」であったが、64.4%は満足と答えており、決して満足度が低いというものではなかった。
- ここまでに見た各分野の満足度の経年変化は05年～06年あたりを底として、08年まで満足度向上が続く傾向が見られたが、「就職・進学支援」だけはそのパターンから外れており、07年まで低下を続け、今回で少し向上する結果となった。
- ただし、「合同会社説明会 on KIT」だけは08年も満足度が低下しており、学生からは厳しい評価となっていた。



< 5-1 > ポートフォリオシステムの満足度

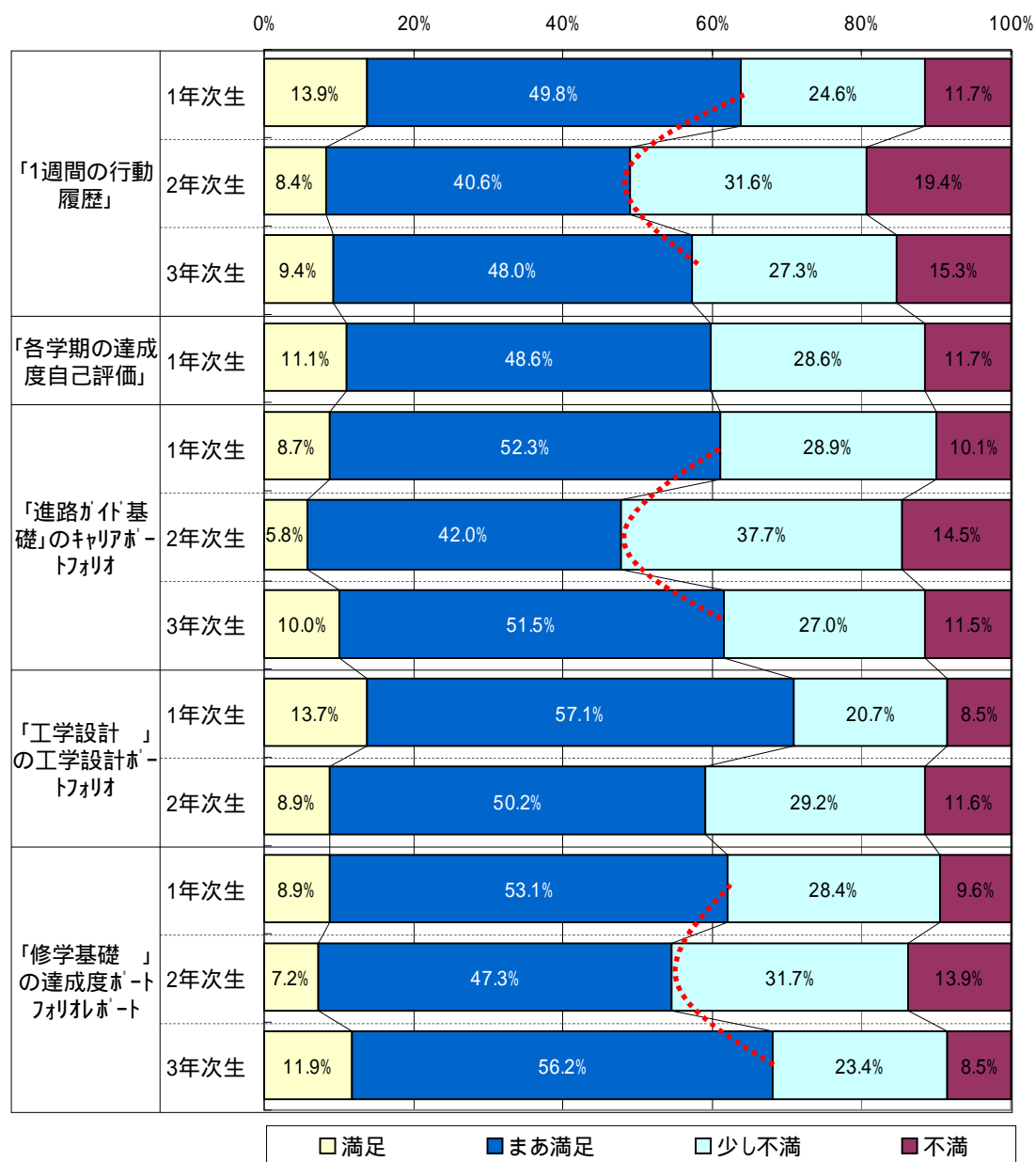
- ポートフォリオシステムの5つの項目の評価を「満足」と「やや満足」の合計で見たところ、右記のようになった。
- 最も満足度が高かったのは「工学設計」の工学設計ポートフォリオであり、65.0%が満足と回答していた。
- 次いで、「修学基礎」の達成度ポートフォリオレポートが60.3%、「各学期の達成度自己評価」の満足度が59.7%であり、以上の3項目の満足度がほぼ6割以上のものであった。
- やや満足度が低かったのは「進路ガイド基礎のキャリアポートフォリオ」の55.9%と「1週間の行動履歴」の56.6%であったが、これらの満足度も5割を超えており、決して低いわけではなかった。



<5-2> ポートフォリオシステムの満足度 学年別比較

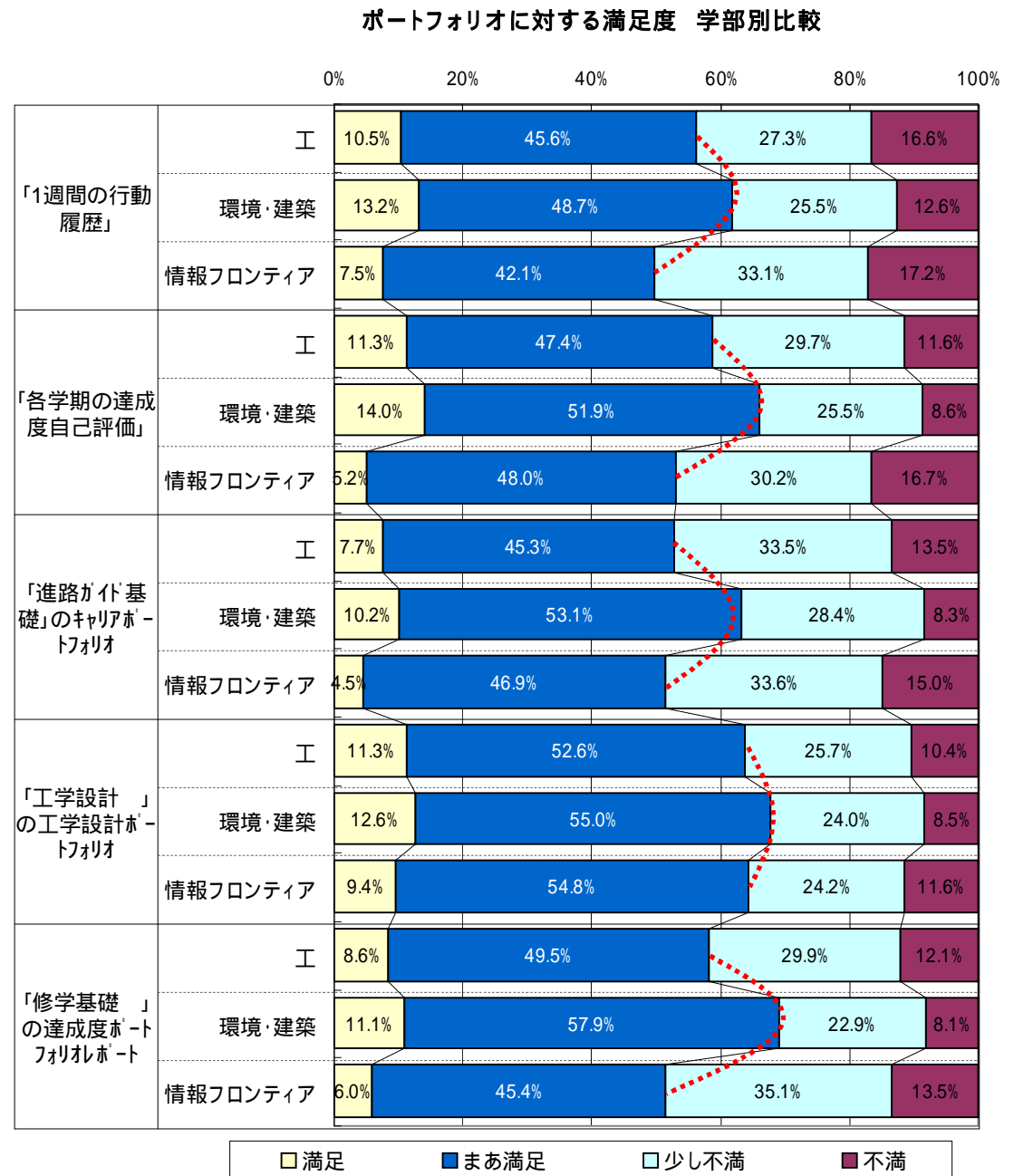
- ポートフォリオシステムの満足度を学年別に比較した。「各学期の達成度自己評価」は1年次生のみ、「工学設計」の工学設計ポートフォリオ」は1年次生と2年次生だけへの質問となっている。
- 1年次生のみ、1年次生と2年次生だけの項目を除くと、2年次生の満足度が低いという点で共通した特徴が見られ、2年次生はポートフォリオシステムに対する満足度が低いことが分かる。
- 2年次生だけに注目すると、「1週間の行動履歴」「進路ガイド基礎のキャリアポートフォリオ」「修学基礎」の達成度ポートフォリオレポート」の3項目はともに、満足している割合が5割程度で、1年次生、2年次生と比べると10ポイントほどの差がついており、満足度の低さが目立っていた。
- 1年次生と3年次生の差は固定しておらず、「1週間の行動履歴」は1年次生の満足度が高く、「修学基礎」の達成度ポートフォリオレポート」は3年次生の満足度が高かった。

ポートフォリオに対する満足度 学年別比較



< 5-3 > ポートフォリオシステムの満足度 学部別比較

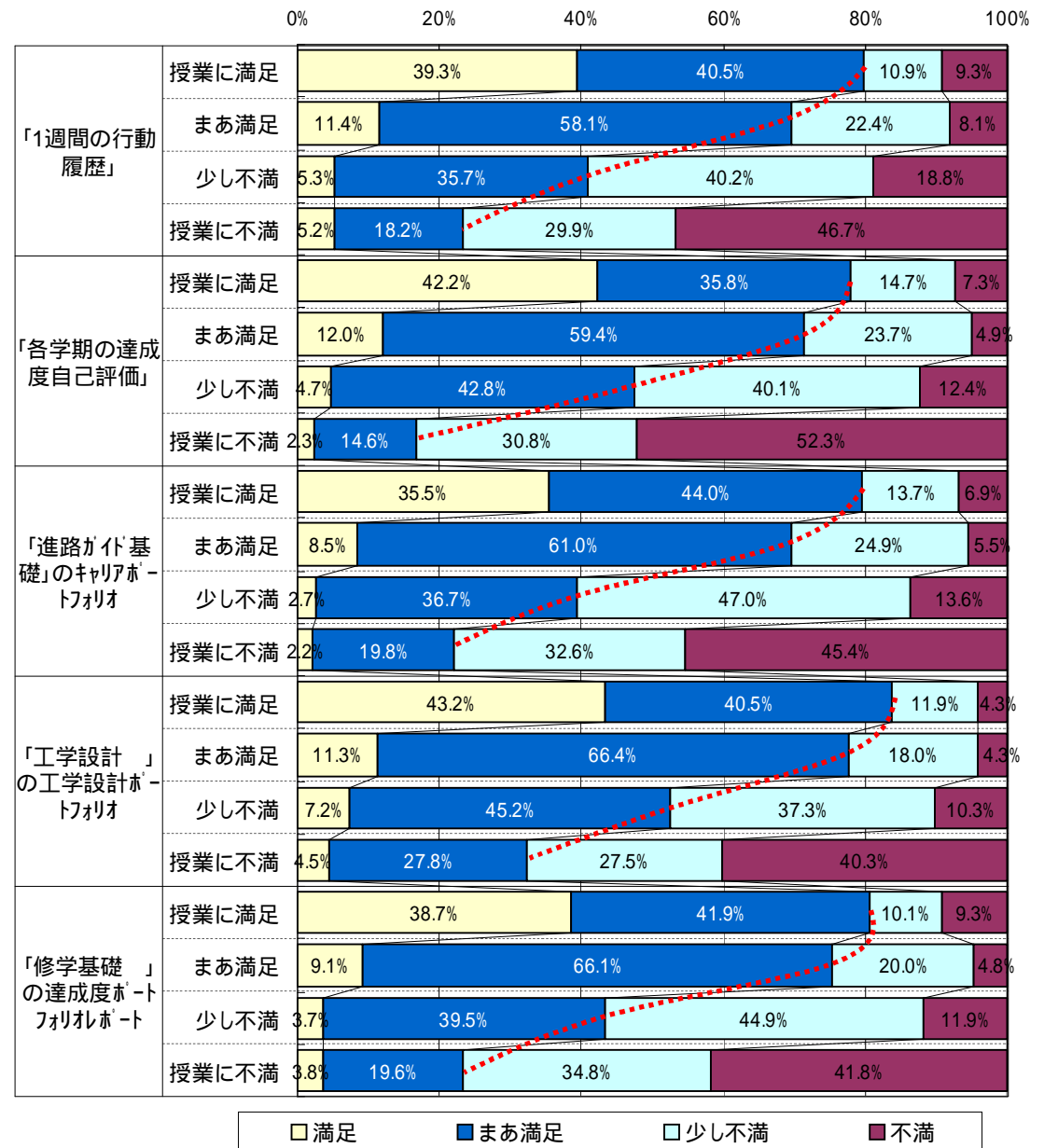
- 学部別に比較をしたところ、全体的に特徴が共通しており、全ての項目で「環境・建築学部」の満足度が最も高かった。
- 「工学設計」の工学設計ポートフォリオは学部による満足度の差があまり大きくなく、どの学部も満足しているようであったが、その他では「環境・建築学部」が10ポイント以上高い項目が多く見られ、「環境・建築学部」は満足度が高いことが分かった。
- 「工学部」と「情報フロンティア学部」の満足度は同程度であったが、やや「工学部」の方が高かった。
- 前で見ている「KITの満足度」は「環境・建築学部」が最も高く、次いで「工学部」「情報フロンティア学部」という順であったが、ポートフォリオシステムに対する満足度の順もそれと同じであった。



< 5-4 > ポートフォリオシステムの満足度 授業満足度別比較

- ポートフォリオシステムの評価が、授業全体の満足度とどのように関係しているのかを確認した。
- 当然の結果ではあるがポートフォリオシステムに対しては、授業に満足している層が高く評価しており、授業の満足度が低い層ほど低く評価していることが確認できた。
- この傾向は全てのポートフォリオシステムの評価に共通であり、因果関係はハッキリしないが授業に満足している学生はポートフォリオシステムもしっかり活用し、良い循環ができているものと思われる。

ポートフォリオに対する満足度 授業満足度別比較



< 6-1 > サービスや機能の利用者割合

- サービスや機能の利用者割合を見ると、「ライブラリーセンター」から「郵便局」までの14項目は利用者の割合が8割を超えており、ほとんどの学生が利用するものと思われる。
- 一方、利用者の割合が最も低かったのは「基礎英語教育センター、ロゴス」であり、「えふえむ・エヌ・ワン」と共に14%台の利用率であった。
- 昨年との比較を見ると、「KITライティングセンター」の利用率が3.8ポイント上がっていた。利用率自体は25.8%と決して高くはないが、浸透してきているものと思われる。「自己開発センター」も同様の状況が考えられる。
- 残念ながら昨年より最も利用率が下がっていたのは「マルチメディア考房」で、6.0ポイントの低下であった。また、「夢考房」は2施設共に利用率が低下しており、KITを代表する施設であるにもかかわらず、利用率は47.5%、30.5%と決して高いわけではなく、利用率低下が何故起きているのかをしっかりと把握しておく必要があると言える。

昨年より利用率が上がった施設(TOP5)

	施設名	差
1	KITライティングセンター	3.8
2	自己開発センター	2.3
3	診療所	1.2
4	学習支援デスク	1.1
4	研究室、研究設備	1.1

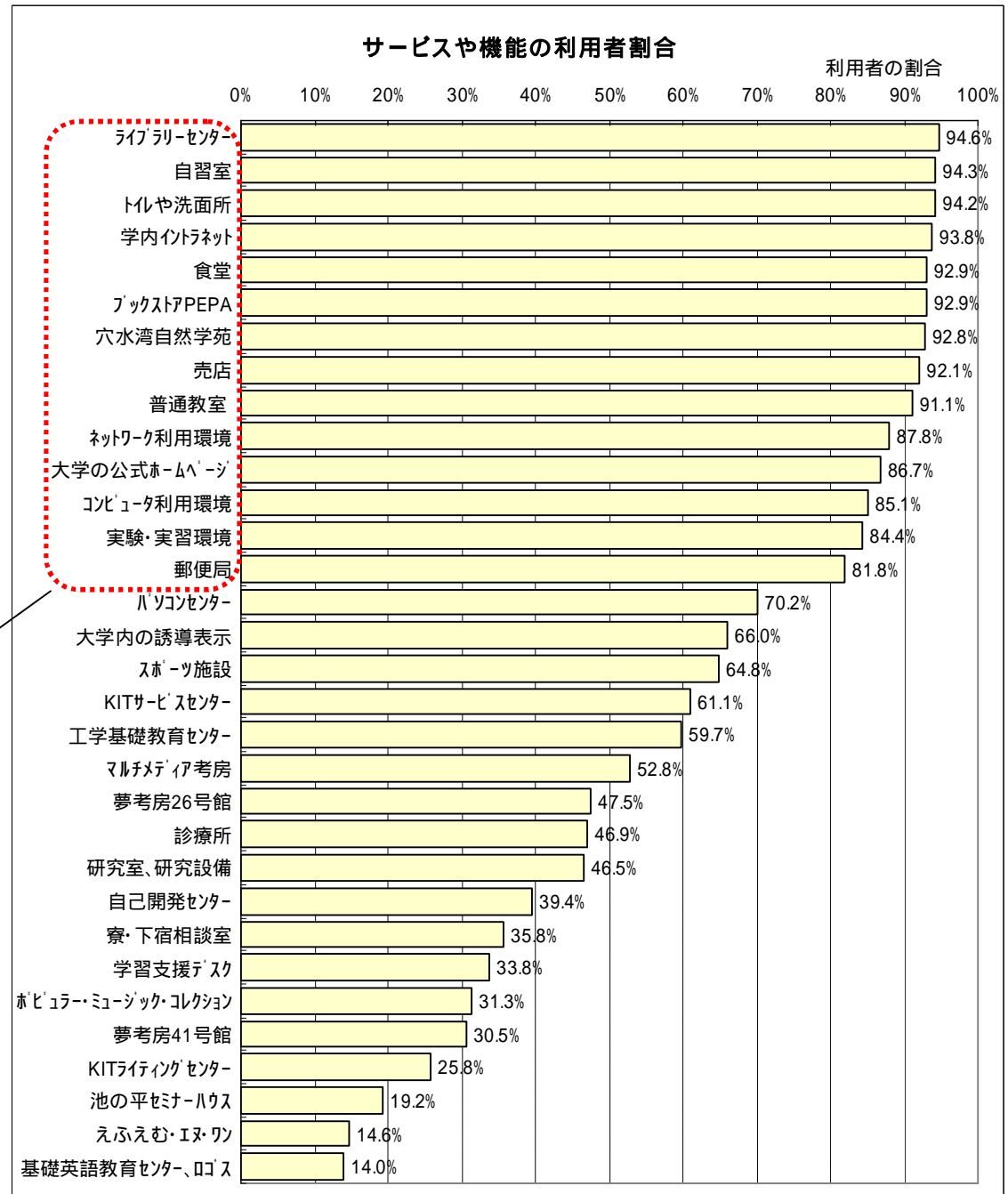
これらの利用率は8割を越え、ほとんどの学生が利用するものと言える

昨年より利用率が下がった施設(TOP5)

	施設名	差
1	マルチメディア考房	-6.0
2	寮・下宿相談室	-3.1
3	郵便局	-2.5
4	夢考房26号館	-2.4
5	夢考房41号館	-1.9
5	大学の公式ホームページ	-1.9

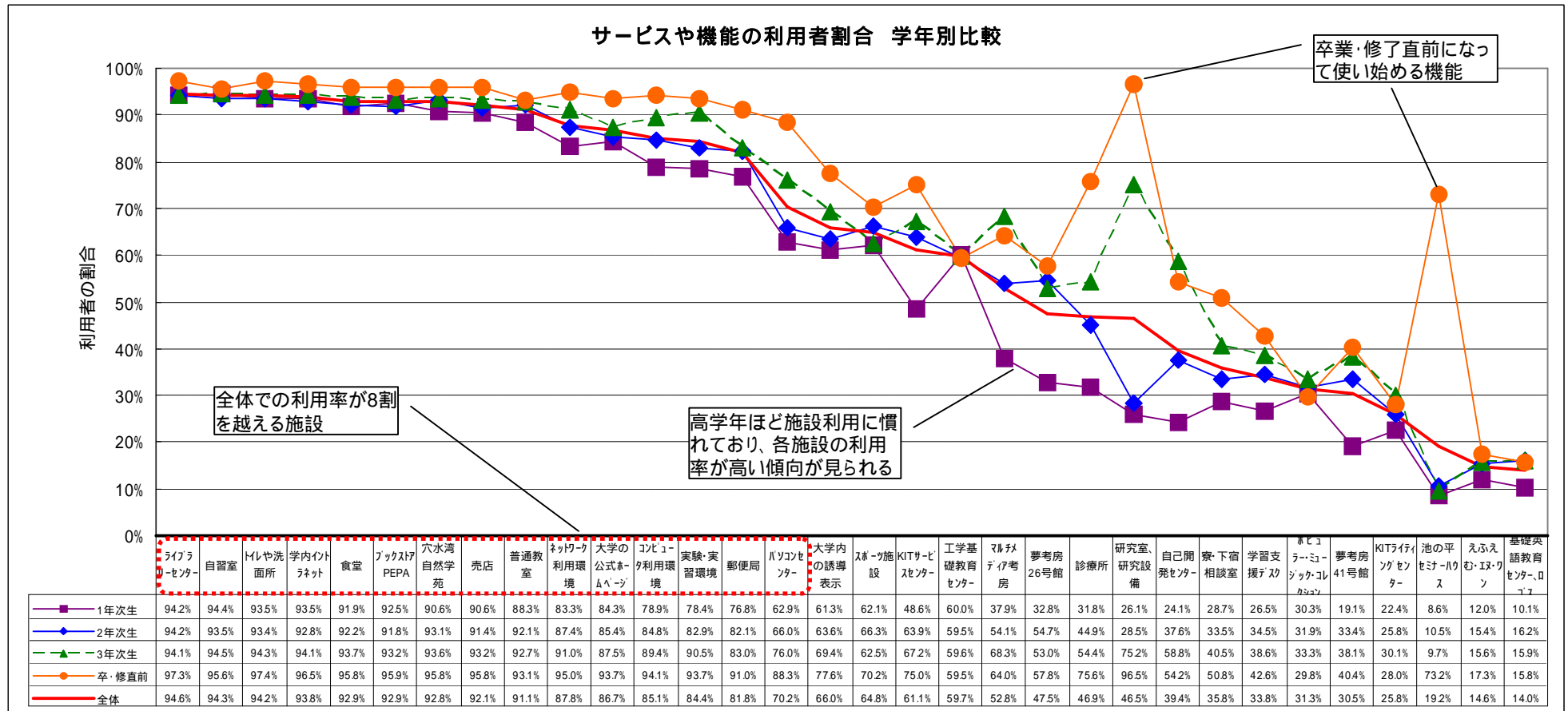
夢考房の利用率は5割に達せず、昨年よりも低下している

「差」は2008年の利用者率から2007年の利用者率をマイナスしたもので、単位はポイント。



< 6-2 > サービスや機能の利用者割合の学年別比較

- 「サービスや機能」の利用者割合を学年別に比較したところ、全体的には「1年次生」の利用率が低く、高学年になるほど利用率が上がる傾向が見られた。これは高学年になるほど大学に慣れ、各種の「サービスや機能」を自由に使えるようになるからだとと思われる。そのように考えると、新入生に対して「サービスや機能」の活用ガイダンスが行き届いていないという可能性も考えられる。
- 「卒・修直前」で目立っていたのは「診療所」「研究室、研究設備」「池の平セミナーハウス」などの利用率の高さであった。これらは4年次生から使うものと考えられ、「診療所」などは就職活動のための健康診断などの利用が考えられる。
- 前項で見た「夢考房」に関しては、「26号館」「41号館」共に「1年次生」の利用率がかなり低く、「2年次生」以降の利用率はそれほど変わらなかった。これを見ると「夢考房」は、「2年次生」以降は一定の割合の学生が使っており、「1年次生」は少し使いにくいと感じているものと思われる。



< 6-3 > サービスや機能の満足度

- 各サービスや機能の利用者だけに限定して満足度を確認したところ、最も満足度が高いのは「郵便局」であり、「満足」と「まあ満足」を合わせると93.1%が満足と答えていた。
- 次いで「KITサービスセンター」「ライブラリーセンター」「自己開発センター」などの満足度が高かった。
- 一方、満足度が最も低かったのは「穴水湾自然学苑」であり、36.3%が不満を感じており、「自習室」「ネットワーク利用環境」が続いて低かった。「自習室」「ネットワーク利用環境」は大学としては重要な施設であり、早急な対応が必要ではないかと思われる。
- 昨年と比べて満足度が最も上がっていたのは「えふえむ・エヌ・ワン」であった。そして「基礎英語教育センター・ロゴス」「夢考房41号館」なども満足度を上げており、具体的な改善策との関連を調べておくべきだと言える。
- 「診療所」と「自習室」は昨年と比べて2.7ポイント満足度が下がっていた。「自習室」は満足度自体も低く、課題があると思われる。また、それほど大きく下がっているわけではないが「食堂」「購買」「ブックストアPEPA」といった購買関連施設の満足度の低下が見られた。

昨年より満足度が上がった施設(TOP5)

	施設名	差
1	えふえむ・エヌ・ワン	5.1
2	基礎英語教育センター・ロゴス	2.7
3	夢考房41号館	2.3
4	実験・実習環境	2.0
5	パソコンセンター	2.0

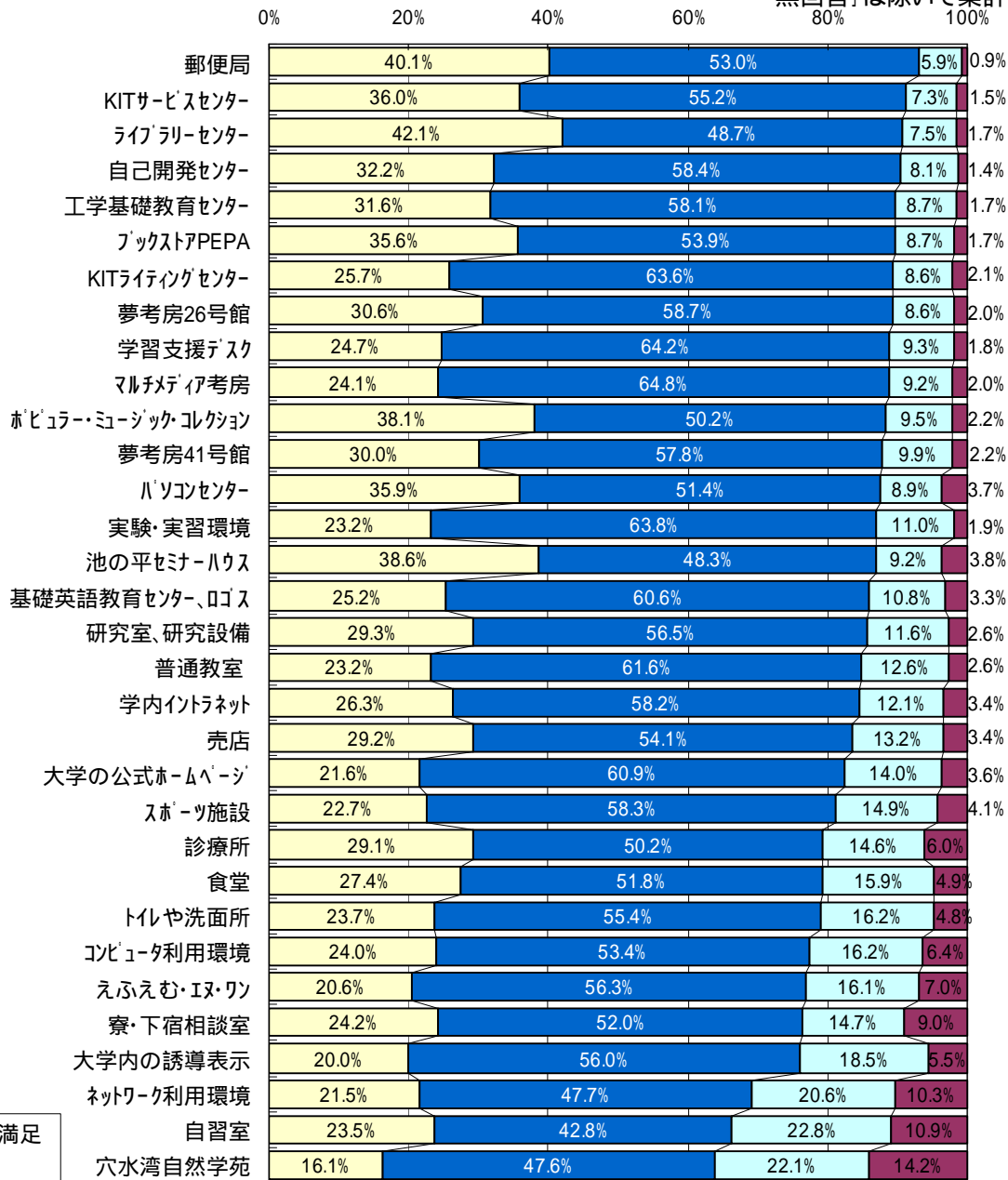
昨年より利用率が下がった施設(TOP5)

	施設名	差
1	診療所	-2.7
2	自習室	-2.7
3	食堂	-2.3
4	購買	-2.1
5	ブックストアPEPA	-1.9

「差」は2008年の満足度(満足+まあ満足の合計)から2007年の値をマイナスしたもので、単位はポイント。

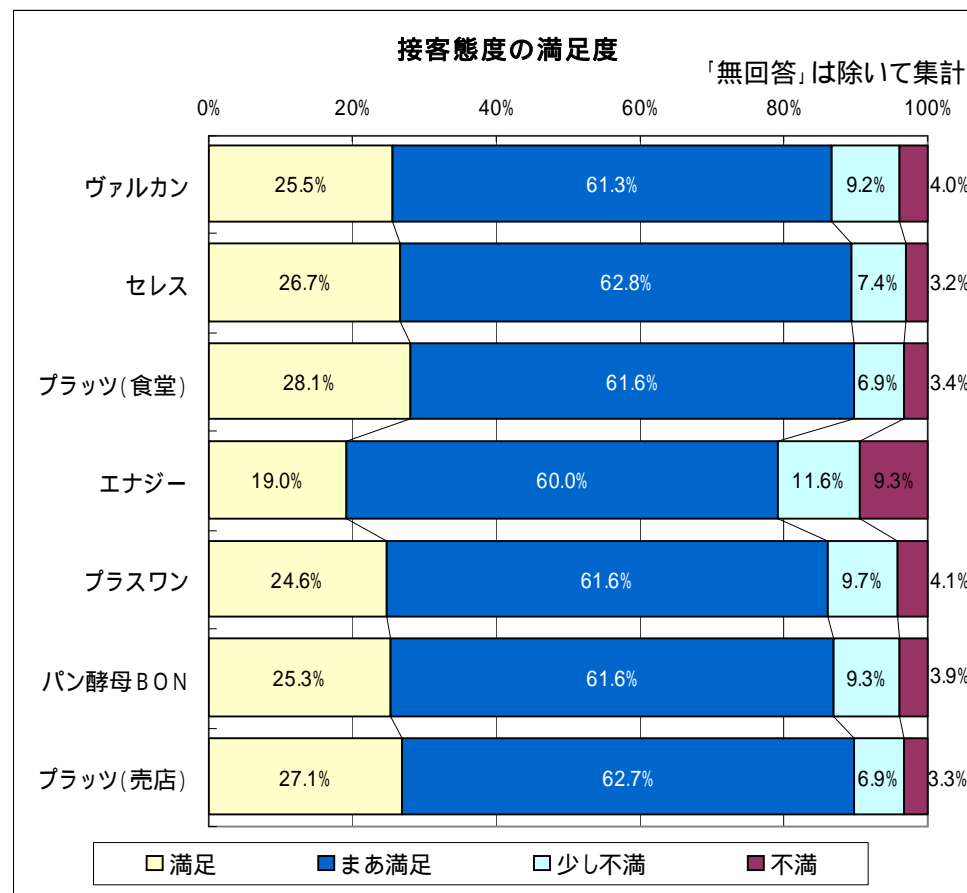
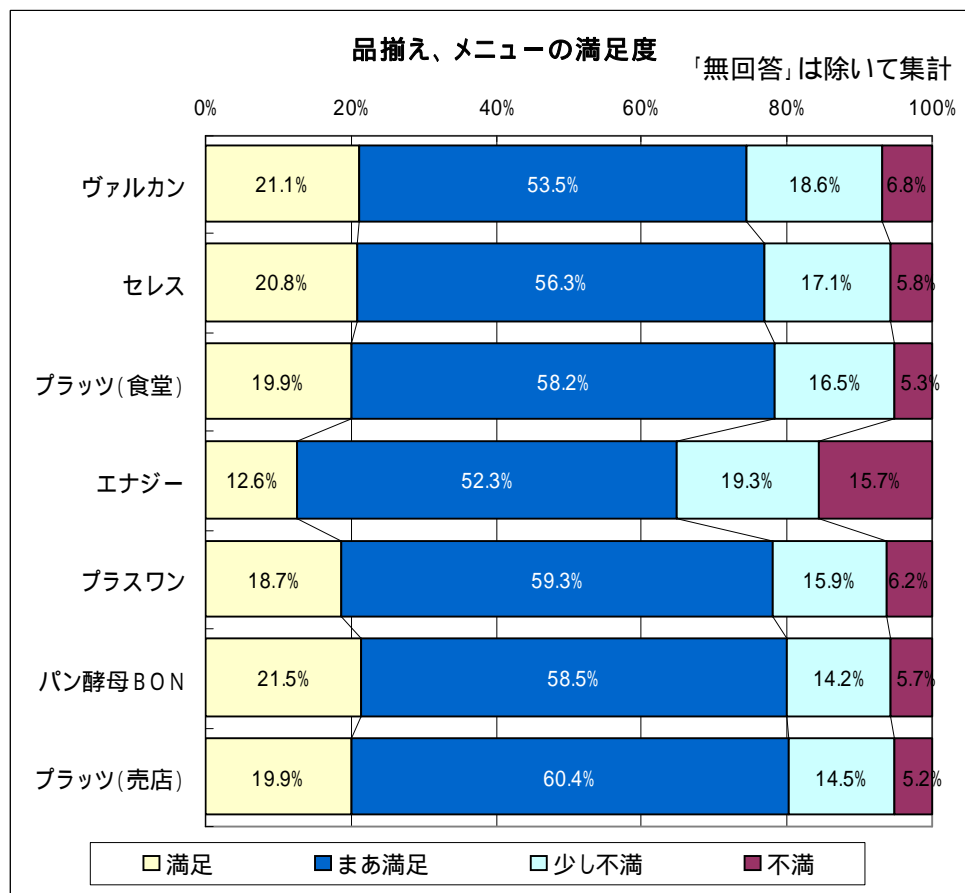
□ 満足 ■ まあ満足
□ 少し不満 ■ 不満

サービスや機能の満足度(利用経験者のみ)「無回答」は除いて集計

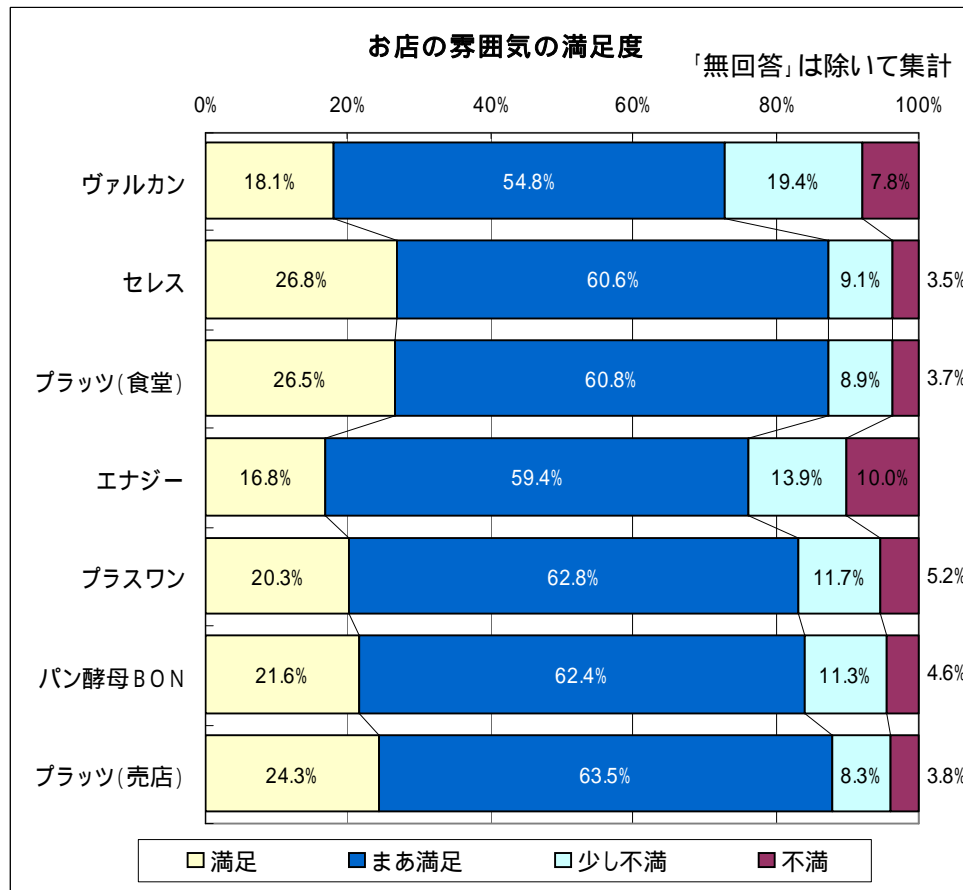


< 6-5 > 食堂、売店の評価

- 食堂、売店の評価は今回初めて聞いたものであるが、「品揃え、メニュー」に関して「満足」と「まあ満足」を合わせると、「プラッツ(売店)」が80.3%、「パン酵母BON」が80.0%であり、この2つの満足度が高かった。
- 他の食堂、売店も「品揃え、メニュー」には8割近くが満足しており、大きな課題はないと思われるが、「エネルギー」だけは満足度が目立って低く、64.9%であった。ここには何らかの課題がありそうであった。特に「不満」という回答が15.7%と多く、改善の余地があるものと思われる。
- 「接客態度」に関しては、「エネルギー」に対しては79.0%が満足と答えており、他の食堂、売店と比較するとやや低めではあるが、致命的な問題はないものと思われる。
- 他の食堂、売店の「接客態度」の満足度は8割を超えており、「プラッツ(売店)」では89.8%、「プラッツ(食堂)」では89.7%と、「プラッツ」の評価の高さが目立っていた。



- 「お店の雰囲気」に関しては、前項の「品揃え、メニュー」「接客態度」とは少し結果が異なっていた。
- まず、「お店の雰囲気」の満足度が最も高かったのは前項と同様に「プラッツ(売店)」であり、次いで「セレス」と「プラッツ(食堂)」が同程度の満足度で、これらの満足度は9割に近かった。
- 一方、最も満足度が低かったのは前項と異なり「ヴァルカン」であり、「お店の雰囲気」に不満を感じている割合は27.2%であった。次いで「エナジー」では23.9%であり、この2つは施設の老朽化などの要因があるのではないと思われる。
- 3つの分野の評価の順位を見ると、3分野共に「プラッツ(売店)」の満足度が最も高く、学生から高く評価されていると言える。そして、前項でも見たように「プラッツ(食堂)」の満足度も高めであり、「プラッツ」全体が良い状態であることがうかがえる。
- 残念ながら全体的に評価が低かったのは「エナジー」と「ヴァルカン」であり、「プラスワン」は「接客態度」「雰囲気」にやや課題があると言える

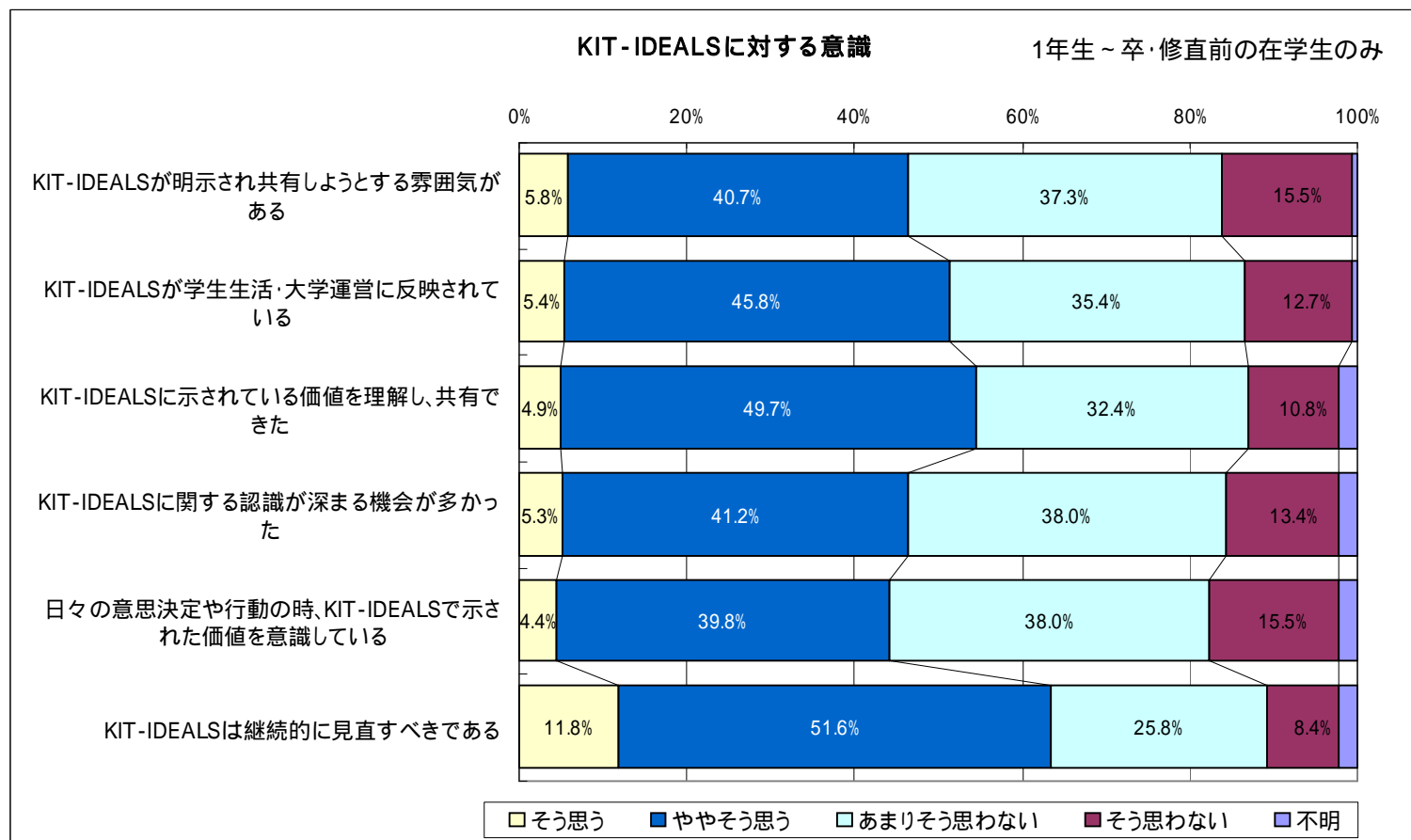


評価の順位

	品揃え、メニュー	接客態度	雰囲気
1	プラッツ(売店)	プラッツ(売店)	プラッツ(売店)
2	パン酵母BON	プラッツ(食堂)	セレス
3	プラッツ(食堂)	セレス	プラッツ(食堂)
4	プラスワン	パン酵母BON	パン酵母BON
5	セレス	ヴァルカン	プラスワン
6	ヴァルカン	プラスワン	エナジー
7	エナジー	エナジー	ヴァルカン

< 7-1 > KIT-IDEALSの学内での認識

- 今回より在学生にも「KIT-IDEALS」に関する意識を聞いた。
- 全体の意識を見ると、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」に対して、「そう思う」と「ややそう思う」の合計は54.6%であった。また、他の項目もほぼ半数は「KIT-IDEALS」に対する意識が高めであり、在学生の半数は「KIT-IDEALS」を意識しながら学生生活を送っていると言えそうであった。
- 一方、「KIT-IDEALSは継続的に見直すべきである」に対しては、「そう思う」が11.8%、「ややそう思う」が51.6%であり、合わせると63.4%は見直しをした方が良いと考えているようであった。

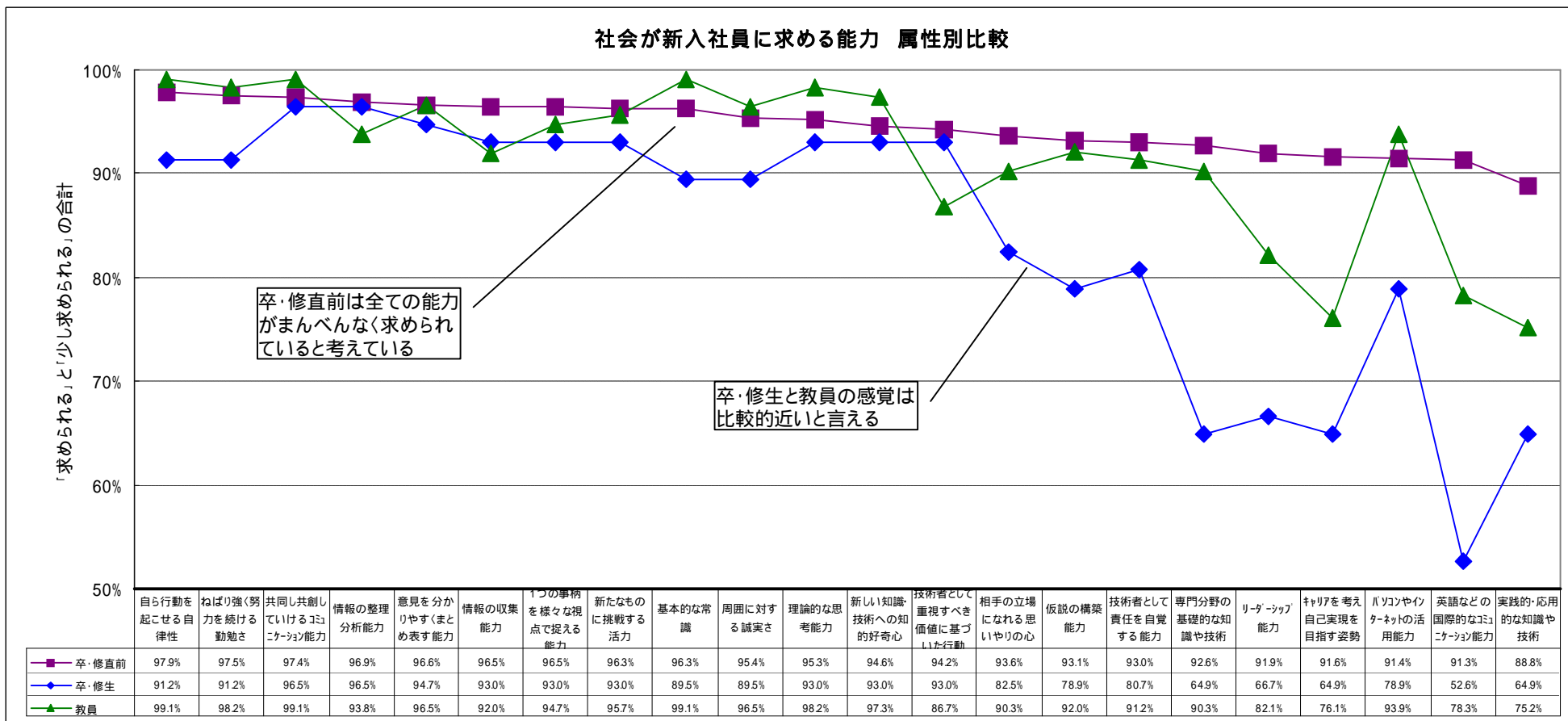


< 8-1 > 社会が新入社員に求める能力

- 「卒・修直前」は社会が新入社員に求める能力として、全てがまんべんなく重要と考えており、特に「自ら行動を起こせる自律性」「ねばり強く努力を続ける勤勉さ」「共同し共創していけるコミュニケーション能力」といった、「心がけ的なもの」を挙げていた。
- 「卒・修生」は低いものが多く、経験から不要なものを見分けており、特に「英語」「専門分野の能力」「自己実現を目指す姿勢」などは新入社員には求められていないと答えていた。
- 「教員」も必要な能力とそうでないものを見分けており、「基本的な常識」「共同し共創していけるコミュニケーション能力」「自ら行動を起こせる自律性」は重要だと考えていた。
- 3者の比較をすると「自律性」「勤勉さ」「コミュニケーション能力」といった心がけや、「情報の整理・分析能力」「意見をまとめる能力」といったテクニック的な面が重要という意見はほぼ一致していた。

上位3項目、下位3項目

	卒・修直前	卒・修生	教員(上位は全て同率)
最上位	自ら行動を起こせる自律性	共同し共創していけるコミュニケーション能力	基本的な常識
2位	ねばり強く努力を続ける勤勉さ	情報の整理分析能力	共同し共創していけるコミュニケーション能力
3位	共同し共創していけるコミュニケーション能力	意見を分かりやすくまとめ表す能力	自ら行動を起こせる自律性
最下位	実践的・応用的な知識や技術	英語などの国際的なコミュニケーション能力	実践的・応用的な知識や技術
2位	英語などの国際的なコミュニケーション能力	専門分野の基礎的な知識や技術	キャリアを考え自己実現を目指す姿勢
3位	パソコンやインターネットの活用能力	キャリアを考え自己実現を目指す姿勢	英語などの国際的なコミュニケーション能力



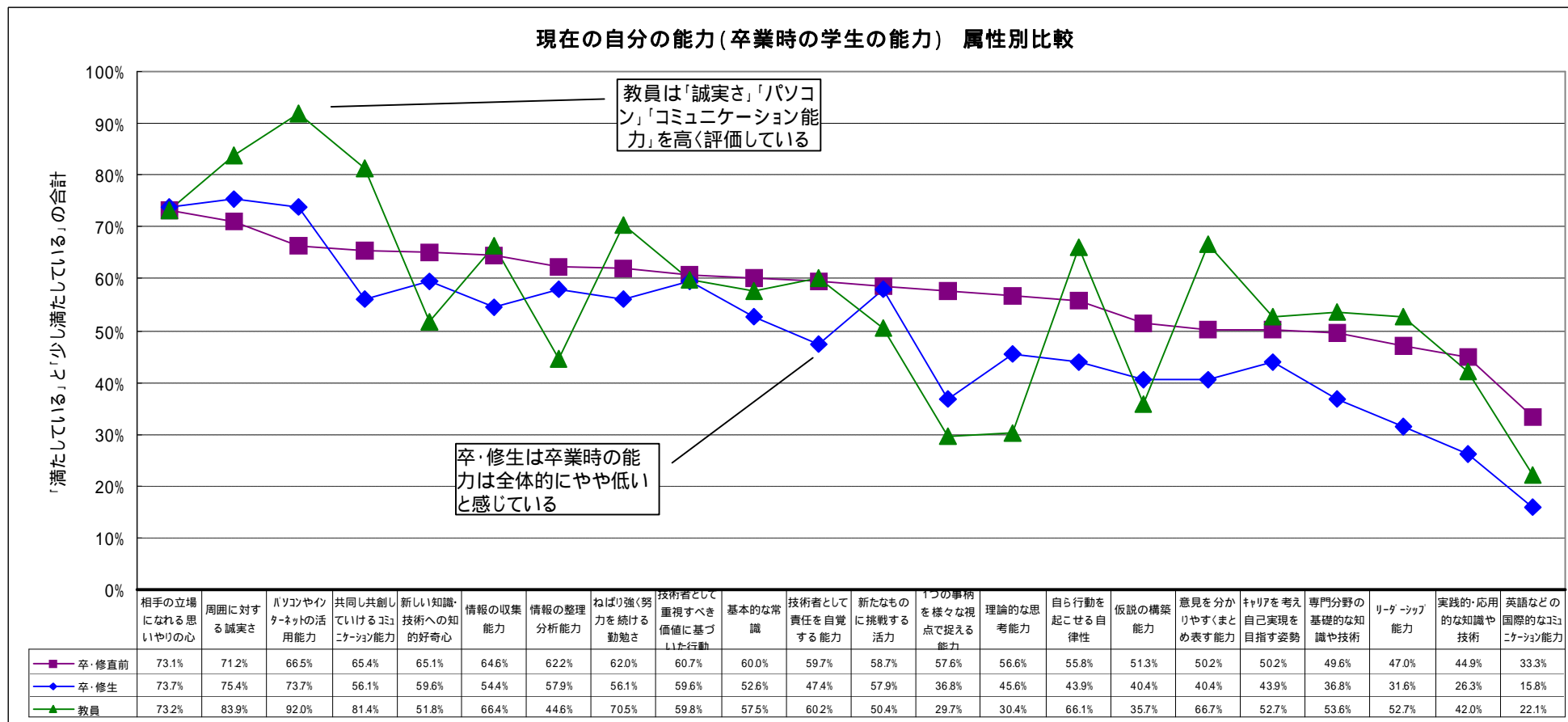
< 8-2 > 現在の自分の能力

- 「卒・修直前」には現在の自分の能力、「卒・修生」には卒業時点の自分の能力、「教員」には卒業時の学生の能力を聞いたところ、上位の中で「相手の立場になれる思いやりの心」「周囲に対する誠実さ」「パソコンやインターネットの活用能力」はほぼ一致しており、これらがKIT卒業生の強みと考えて良いと思われる。これらは特に教員が高く評価していた。
- 一方、卒業生に足りないと思われる能力もよく一致しており、「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「実践的・応用的な知識や技術」「リーダーシップ能力」は低いと考えられていた。
- ただし、「教員」は「1つの事柄を様々な視点で捉える能力」「理論的な思考能力」などが足りないと考えており、学生には物事の捉え方や見方に弱みがあると感じている。

上位3項目、下位3項目

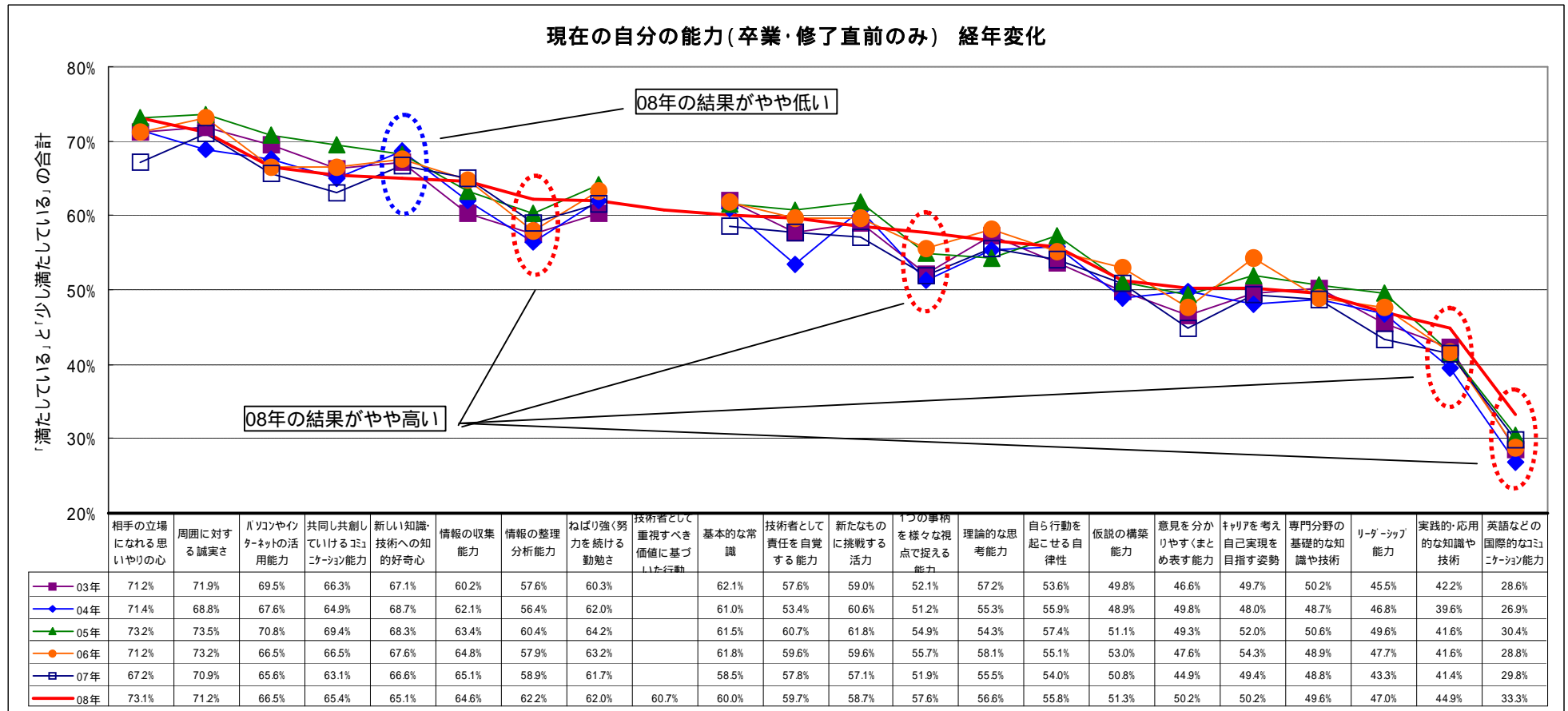
	卒・修直前	卒・修生	教員
最上位	相手の立場になれる思いやりの心	周囲に対する誠実さ	パソコンやインターネットの活用能力
2位	周囲に対する誠実さ	相手の立場になれる思いやりの心	周囲に対する誠実さ
3位	パソコンやインターネットの活用能力	パソコンやインターネットの活用能力	共同し共創していけるコミュニケーション能力

	卒・修直前	卒・修生	教員
最下位	英語などの国際的なコミュニケーション能力	英語などの国際的なコミュニケーション能力	英語などの国際的なコミュニケーション能力
2位	実践的・応用的な知識や技術	実践的・応用的な知識や技術	1つの事柄を様々な視点で捉える能力
3位	リーダーシップ能力	リーダーシップ能力	理論的な思考能力



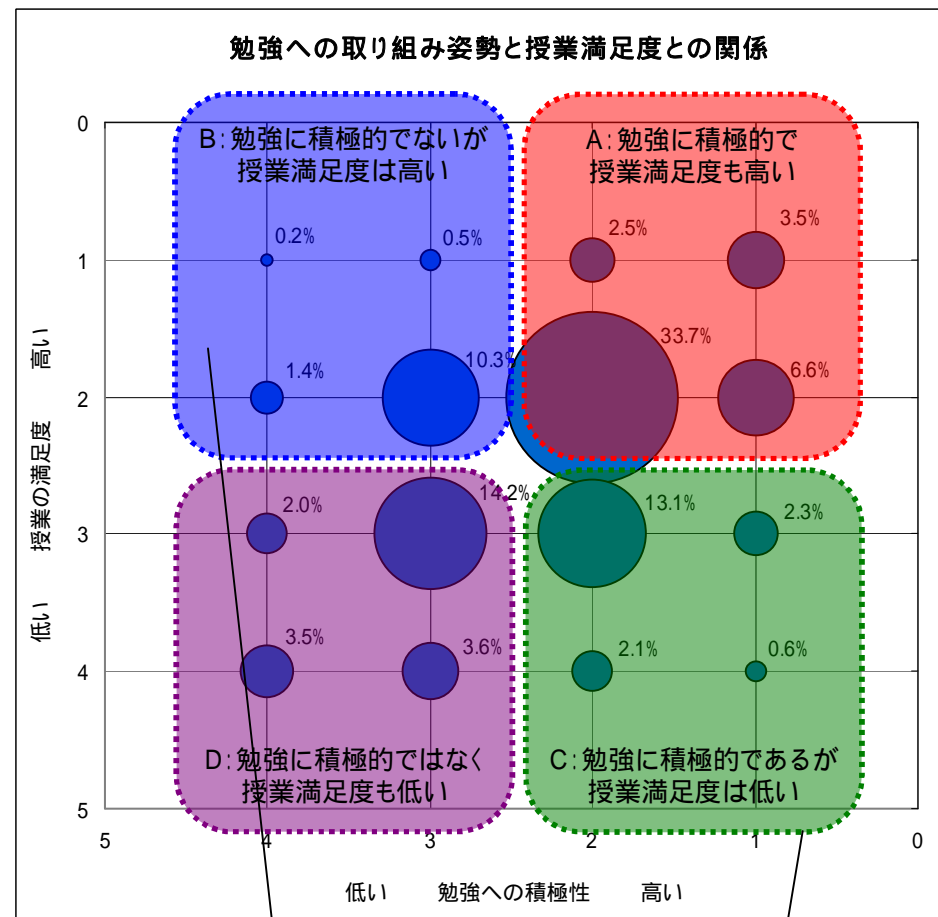
< 8-3 > 現在の自分の能力 卒業・修了直前の自己評価の経年変化

- 「卒・修直前」に聞いた「現在の自分の能力」の経年変化を見たところ、年による大きな差はほとんど見られなかった。
- わずかではあるが今回、自己評価が高めであったのは「情報の整理、分析能力」「1つの事柄を様々な視点で捉える能力」「実践的・応用的な知識や技術」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」などであった。
- 一方、今回、低めであったのは「新しい知識・技術への知的好奇心」であり、これは全体の中では「満たしている」という答えが高かったものの、経年変化で見るとやや低下していた。
- 今回、技術者倫理を聞く質問として「技術者として重視すべき価値に基づいた行動」を追加しているが、これは60.7%が満たしていると回答しており、全体の中では満たしている割合はやや高めであった。



< 9-1 > 勉強への取り組み姿勢と授業満足度との関係

- 勉強への取り組み姿勢(積極性)と授業満足度の関係を見たところ、右の図のようになった。
- 最も多かったのは「A: 勉強に積極的で授業満足度も高い」という最も良い状態の学生であり、全体の46.3%を占めていた。
- 次いで多かったのは、残念ながら「D: 勉強に積極的ではなく授業満足度も低い」という層であり、全体の23.2%を占めていた。この、全体の1/4を占める層が最も良くない状態であり、この層に積極性を持たせることが最も大きな課題と言える。
- そして、「B: 勉強に積極的でないが授業満足度は高い」という層が12.4%、「C: 勉強に積極的であるが授業満足度は低い」という層が18.0%を占めていた。
- 「B」の層は消極的ではあるものの、教員や大学の提供する学生サポートシステムによって引っぱられている層であり、成功体験を積むことで良い循環に導くことができると思われる。
- 「C」の層は積極的であるが満足が得られていない層であり、「授業内容が期待を下回っている」というケースと、「積極的であるが理解が追いつかない」という両極端のケースが考えられ、個別に対応していくことが必要と言える。



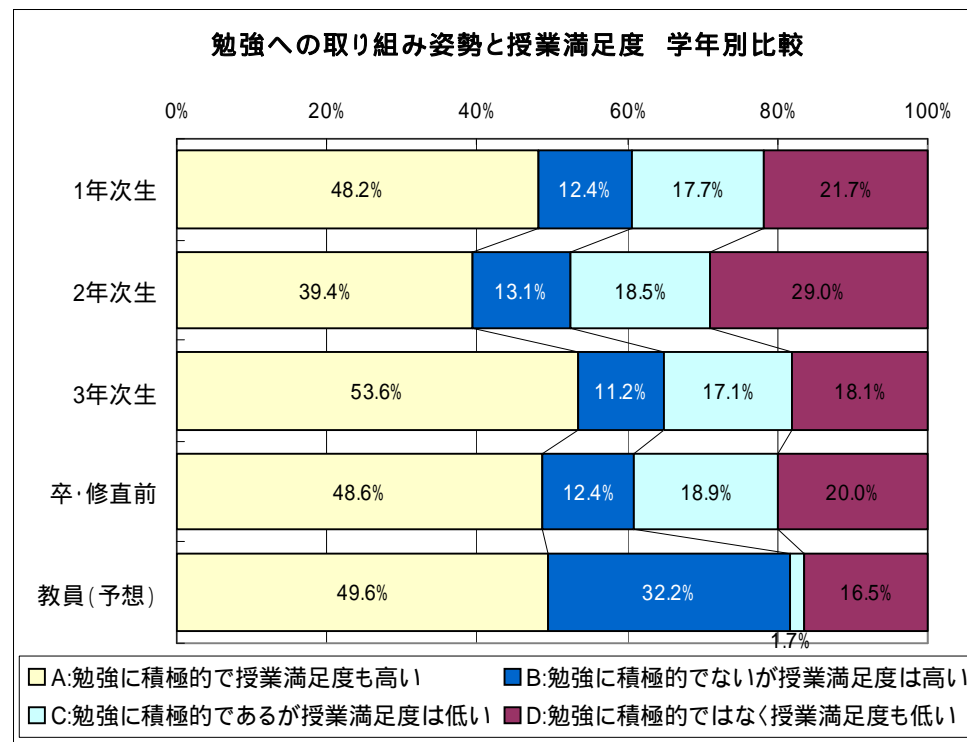
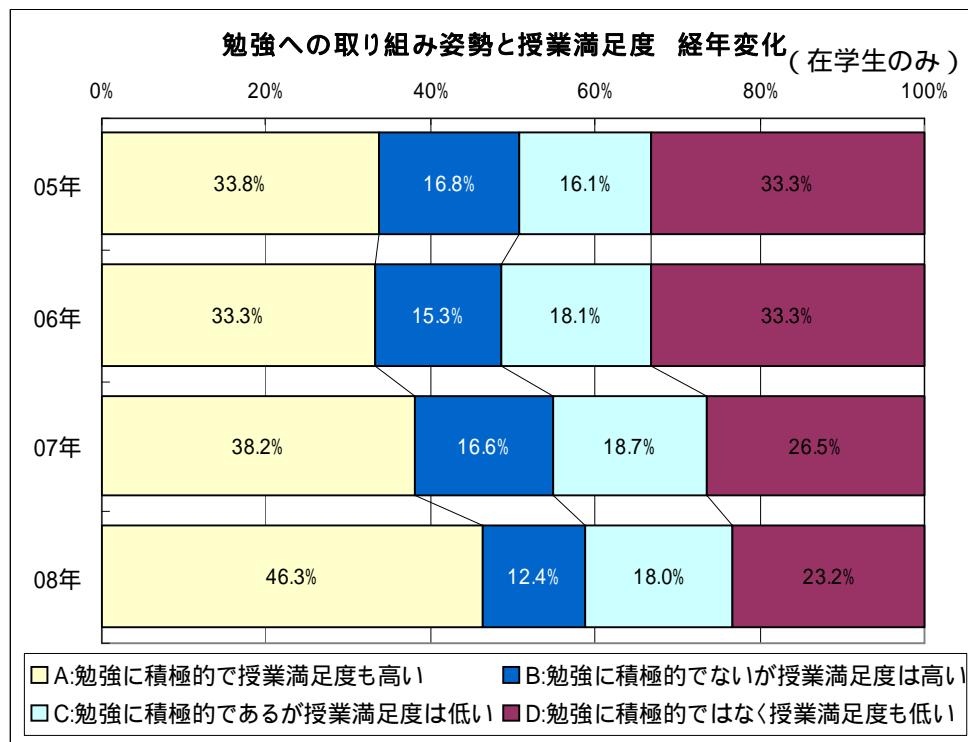
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	46.3%	<ul style="list-style-type: none"> ● 勉強に積極的で授業の満足度も高い。 ● 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。 	積極・満足型
B	12.4%	<ul style="list-style-type: none"> ● 勉強に積極的でないが授業の満足度は高い。 ● 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 ● 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをするまでの必要もないと思われる。 	消極・満足型
C	18.0%	<ul style="list-style-type: none"> ● 勉強に積極的であるが授業の満足度は低い。 ● 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 ● 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。 	積極・不満型
D	23.2%	<ul style="list-style-type: none"> ● 勉強に積極的でなく授業の満足度も低い。 ● 大学生であるという意識を持っているのかも疑わしい。 	消極・不満型

教員の指導によって引っぱられている学生群

頑張っているが満足度が低い。
注意してケアすべき学生群

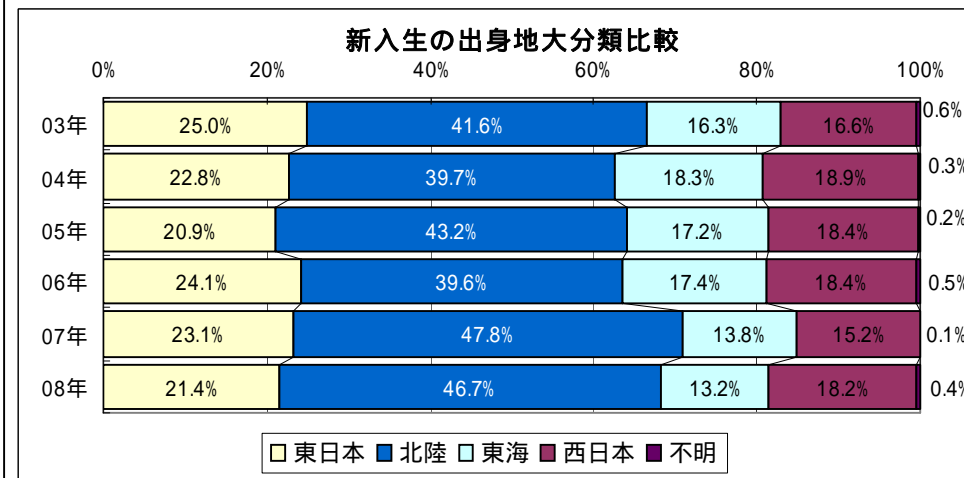
< 9-2 > 勉強への取り組み姿勢の属性別比較

- 前項で4つに分けた層の割合の経年変化を見ると、最も良い状態の「A:勉強に積極的で授業満足度も高い」が07年、08年と増加してきており、今回は46.3%を占める結果となった。ここまでに見てきたように「KITの満足度」なども増していることと連関しており、学生が良い状態に向かっていると言える。
- 「D:勉強に積極的ではなく授業満足度も低い」が3.3ポイント減少しており、最も良くない状態の学生は減りつつあると言える。そして、「B:勉強に積極的でないが授業満足度は高い」も4.2ポイント減少していた。
- 前項で見たように「C:勉強に積極的であるが授業満足度は低い」という層はやや複雑であるが、この層の割合は06年からほとんど変わっておらず、常に一定の割合を占めていると言えそうであった。
- 学年別の比較では、これまで見てきたように「2年次生」が最も良くない状態にあり、「D」が29.0%を占めていた。そして、「3年次生」が良い状態にあり、「1年次生」と「卒・修直前」が中庸な状態であった。
- 「教員」の学生評価では、「A」の割合は実際の学生の回答とほぼ一致しているが、「B」が多いと考えており、これは「学生に積極性は感じられないが、教員や大学がサポートしているために一応の満足度は感じている」と解釈することもできる。そして、「C」の積極的であるが満足度を得られないという、解釈が難しい層に関しては、ほとんどいないと考えているようであった。



< 10-1 > 新入生のプロフィール

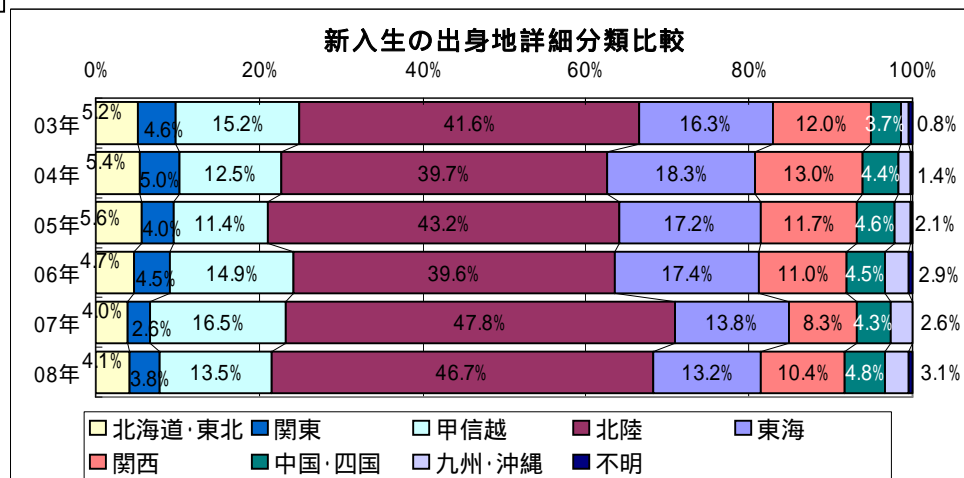
- 今回の新入生から4学部制となり、最も多かったのは「工学部」(43.8%)であり、「情報学部」「環境・建築学部」「バイオ・化学部」の順となっていた。
- 学科では「機械工学科」が15.6%と最も多く、「情報工学科」「電気電子工学科」「建築学科」の順となっていた。
- 出身地に関しては大きな変動はなかったが、「西日本」がやや増加し、「東日本」が減少していた。詳細な地域で見ると「関西」が2.1ポイント増加し、「甲信越」が3.0ポイント減少という結果であった。
- 入試の種類では「センター試験利用」が増加して「一般試験」が減少しており、その他の変動は見られなかった。
- 出身高校の課程では「その他」が3.6ポイント増加しており、理系(普通科)が3.3ポイント減少していた。
- 現役と浪人の比率はほとんど変わっておらず、現役入学が93.9%を占めていたが、04年からの長期スパンで見るとわずかずつではあるが「浪人生」が減少する傾向が見られた。

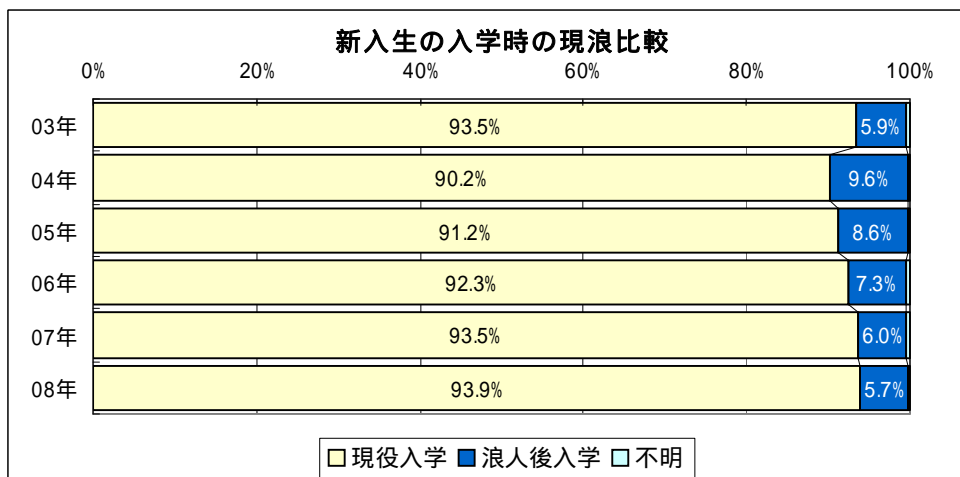
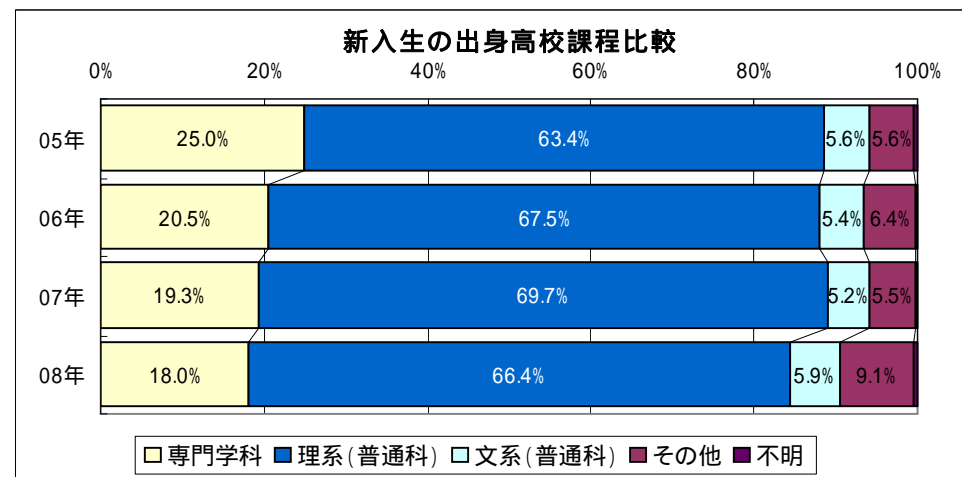
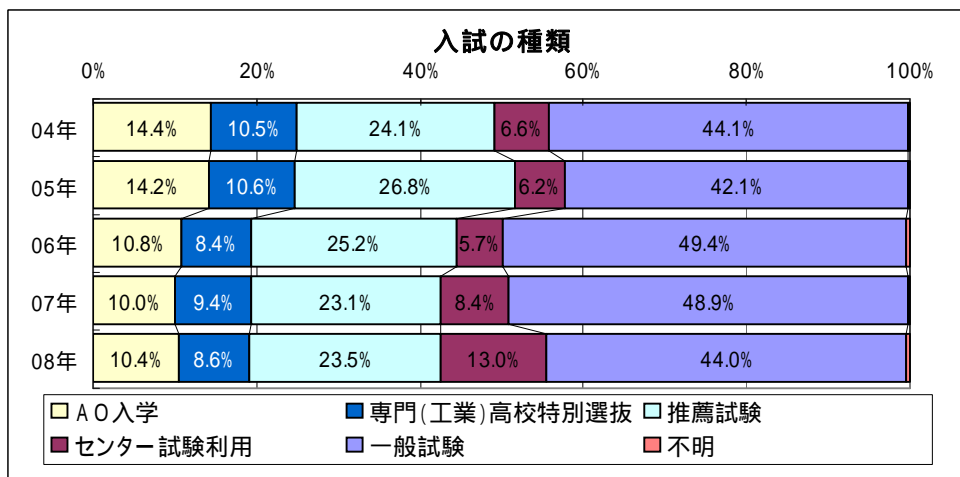


学部・学科割合

学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	723	43.8%	257	15.6%
	ロボティクス学科			130	7.9%
	航空システム工学科			79	4.8%
	電気電子工学科			195	11.8%
	情報通信工学科			62	3.8%
バイオ・化学部	応用バイオ学科	181	11.0%	109	6.6%
	応用化学科			72	4.4%
環境・建築学部	建築学科	294	17.8%	177	10.7%
	建築都市デザイン学科			66	4.0%
	環境土木工学科			51	3.1%
情報学部	情報工学科	433	26.2%	218	13.2%
	メディア情報学科			131	7.9%
	心理情報学科			45	2.7%
	情報経営学科			39	2.4%
	無回答	21	1.3%	21	1.3%
	合計	1652	100.0%	1652	100.0%

08年より新たな学部、学科体制となっている。





03年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	16	2.2%	東日本	北海道・東北
青森県	1	0.1%		
岩手県	0	0.0%		
宮城県	4	0.6%		
秋田県	4	0.6%		
山形県	9	1.2%		
福島県	4	0.6%		
茨城県	3	0.4%		
栃木県	4	0.6%		
群馬県	11	1.5%		
埼玉県	1	0.1%		
千葉県	9	1.2%		
東京都	4	0.6%		
神奈川県	1	0.1%		
新潟県	69	9.5%	181 25.0%	110 15.2%
山梨県	3	0.4%		
長野県	38	5.2%		
富山県	64	8.8%		
石川県	203	28.0%		
福井県	34	4.7%		
岐阜県	29	4.0%		
静岡県	35	4.8%		
愛知県	24	3.3%		
三重県	30	4.1%		
滋賀県	37	5.1%	西日本	関西
京都府	14	1.9%		
大阪府	10	1.4%		
兵庫県	17	2.3%		
奈良県	1	0.1%		
和歌山県	8	1.1%		
鳥取県	3	0.4%		
島根県	3	0.4%		
岡山県	11	1.5%		
広島県	6	0.8%		
山口県	0	0.0%		
徳島県	2	0.3%		
香川県	1	0.1%		
愛媛県	1	0.1%		
高知県	0	0.0%		
福岡県	2	0.3%		
佐賀県	0	0.0%		
長崎県	1	0.1%		
熊本県	0	0.0%		
大分県	0	0.0%		
宮崎県	0	0.0%		
鹿児島	1	0.1%		
沖縄県	2	0.3%		
不明	4	0.6%		
合計	724	100.0%	724 100.0%	724 100.0%

04年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	24	1.4%	東日本	北海道・東北
青森県	10	0.6%		
岩手県	3	0.2%		
宮城県	4	0.2%		
秋田県	12	0.7%		
山形県	16	1.0%		
福島県	21	1.3%		
茨城県	19	1.1%		
栃木県	9	0.5%		
群馬県	10	0.6%		
埼玉県	9	0.5%		
千葉県	13	0.8%		
東京都	19	1.1%		
神奈川県	4	0.2%		
新潟県	109	6.5%	382 22.8%	209 12.5%
山梨県	5	0.3%		
長野県	95	5.7%		
富山県	132	7.9%		
石川県	468	28.0%		
福井県	63	3.8%		
岐阜県	77	4.6%		
静岡県	78	4.7%		
愛知県	100	6.0%		
三重県	51	3.1%		
滋賀県	75	4.5%	西日本	関西
京都府	51	3.1%		
大阪府	16	1.0%		
兵庫県	60	3.6%		
奈良県	3	0.2%		
和歌山県	13	0.8%		
鳥取県	7	0.4%		
島根県	5	0.3%		
岡山県	25	1.5%		
広島県	12	0.7%		
山口県	2	0.1%		
徳島県	5	0.3%		
香川県	7	0.4%		
愛媛県	8	0.5%		
高知県	3	0.2%		
福岡県	11	0.7%		
佐賀県	2	0.1%		
長崎県	2	0.1%		
熊本県	1	0.1%		
大分県	1	0.1%		
宮崎県	2	0.1%		
鹿児島	4	0.2%		
沖縄県	1	0.1%		
不明	5	0.3%		
合計	1672	100.0%	1672 100.0%	1672 100.0%

05年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	15	0.9%	東日本	北海道・東北
青森県	8	0.5%		
岩手県	5	0.3%		
宮城県	13	0.8%		
秋田県	11	0.7%		
山形県	18	1.1%		
福島県	20	1.2%		
茨城県	14	0.9%		
栃木県	3	0.2%		
群馬県	18	1.1%		
埼玉県	4	0.2%		
千葉県	8	0.5%		
東京都	9	0.6%		
神奈川県	8	0.5%		
新潟県	108	6.7%	337 20.9%	183 11.4%
山梨県	4	0.2%		
長野県	71	4.4%		
富山県	192	11.9%		
石川県	424	26.3%		
福井県	80	5.0%		
岐阜県	58	3.6%		
静岡県	92	5.7%		
愛知県	86	5.3%		
三重県	41	2.5%		
滋賀県	47	2.9%	西日本	関西
京都府	29	1.8%		
大阪府	25	1.6%		
兵庫県	65	4.0%		
奈良県	10	0.6%		
和歌山県	13	0.8%		
鳥取県	10	0.6%		
島根県	10	0.6%		
岡山県	16	1.0%		
広島県	19	1.2%		
山口県	3	0.2%		
徳島県	7	0.4%		
香川県	6	0.4%		
愛媛県	2	0.1%		
高知県	1	0.1%		
福岡県	15	0.9%		
佐賀県	3	0.2%		
長崎県	4	0.2%		
熊本県	3	0.2%		
大分県	1	0.1%		
宮崎県	4	0.2%		
鹿児島	0	0.0%		
沖縄県	4	0.2%		
不明	3	0.2%		
合計	1610	100.0%	1610 100.0%	1610 100.0%

06年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	21	1.2%	東日本	北海道・東北
青森県	7	0.4%		
岩手県	3	0.2%		
宮城県	9	0.5%		
秋田県	8	0.5%		
山形県	16	0.9%		
福島県	18	1.0%		
茨城県	10	0.6%		
栃木県	11	0.6%		
群馬県	18	1.0%		
埼玉県	12	0.7%		
千葉県	13	0.7%		
東京都	7	0.4%		
神奈川県	7	0.4%		
新潟県	144	8.2%	421 24.1%	261 14.9%
山梨県	12	0.7%		
長野県	105	6.0%		
富山県	170	9.7%		
石川県	427	24.4%		
福井県	94	5.4%		
岐阜県	57	3.3%		
静岡県	93	5.3%		
愛知県	97	5.6%		
三重県	57	3.3%		
滋賀県	45	2.6%	西日本	関西
京都府	31	1.8%		
大阪府	36	2.1%		
兵庫県	62	3.5%		
奈良県	11	0.6%		
和歌山県	7	0.4%		
鳥取県	7	0.4%		
島根県	8	0.5%		
岡山県	12	0.7%		
広島県	22	1.3%		
山口県	11	0.6%		
徳島県	6	0.3%		
香川県	7	0.4%		
愛媛県	1	0.1%		
高知県	5	0.3%		
福岡県	23	1.3%		
佐賀県	3	0.2%		
長崎県	7	0.4%		
熊本県	2	0.1%		
大分県	3	0.2%		
宮崎県	8	0.5%		
鹿児島	2	0.1%		
沖縄県	3	0.2%		
不明	9	0.5%		
合計	1747	100.0%	1747 100.0%	1747 100.0%

07年 出身地一覧

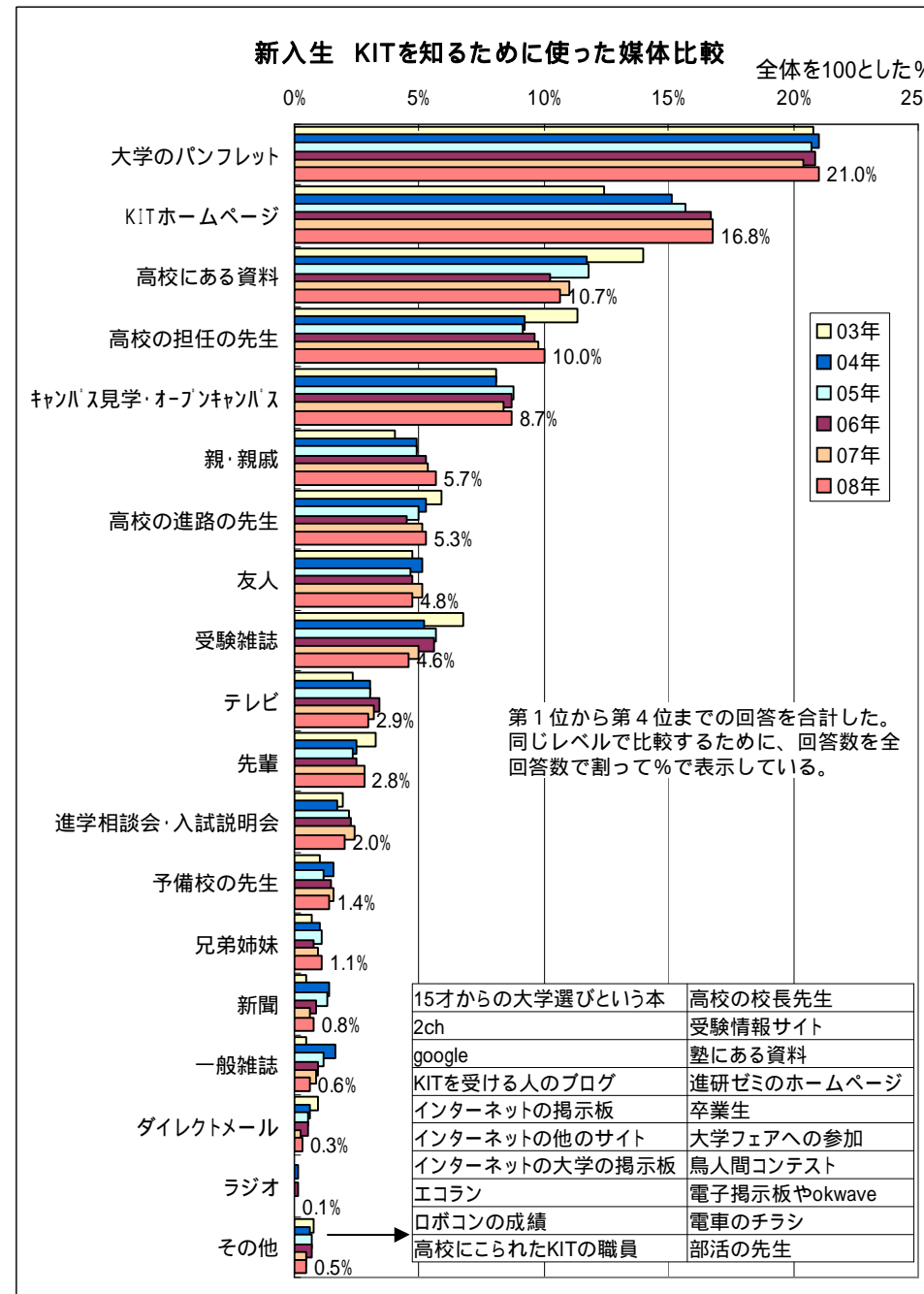
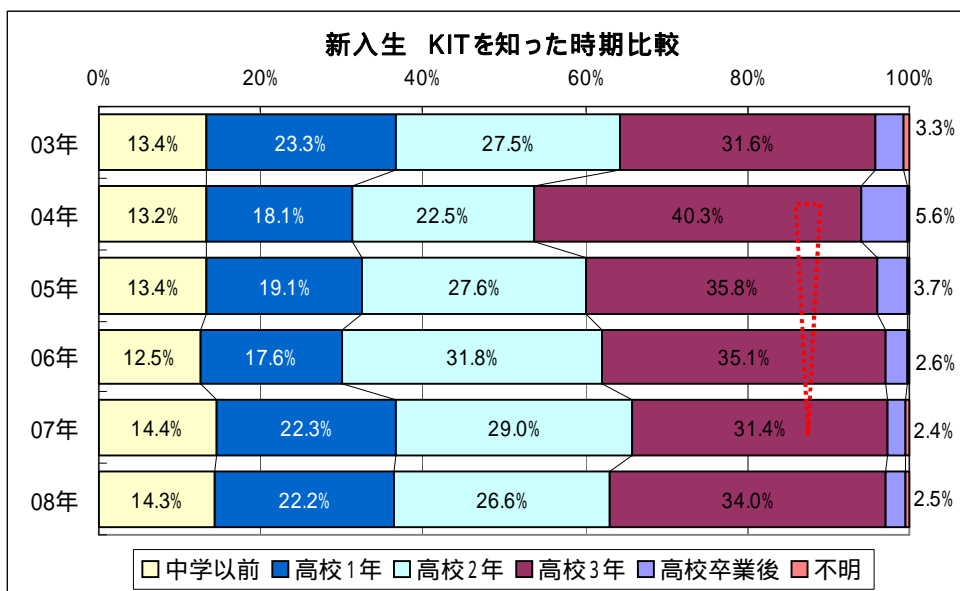
都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	19	1.2%	東日本	北海道・東北
青森県	1	0.1%		
岩手県	6	0.4%		
宮城県	7	0.4%		
秋田県	11	0.7%		
山形県	13	0.8%		
福島県	9	0.5%		
茨城県	6	0.4%		
栃木県	6	0.4%		
群馬県	13	0.8%		
埼玉県	0	0.0%		
千葉県	3	0.2%		
東京都	6	0.4%		
神奈川県	9	0.5%		
新潟県	156	9.5%		
山梨県	2	0.1%		
長野県	113	6.9%	380	23.1%
富山県	199	12.1%	北陸	北陸
石川県	470	28.6%		
福井県	116	7.1%	785	47.8%
岐阜県	40	2.4%	東海	東海
静岡県	90	5.5%		
愛知県	64	3.9%		
三重県	33	2.0%		
滋賀県	32	1.9%	西日本	関西
京都府	23	1.4%		
大阪府	19	1.2%		
兵庫県	50	3.0%		
奈良県	5	0.3%		
和歌山県	8	0.5%		
鳥取県	8	0.5%		
島根県	10	0.6%		
岡山県	16	1.0%		
広島県	14	0.9%		
山口県	6	0.4%		
徳島県	4	0.2%		
香川県	5	0.3%		
愛媛県	4	0.2%		
高知県	3	0.2%		
福岡県	16	1.0%		
佐賀県	3	0.2%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	3	0.2%		
大分県	0	0.0%		
宮崎県	4	0.2%		
鹿児島	2	0.1%		
沖縄県	11	0.7%		
不明	1	0.1%		
合計	1642	100.0%	1642	100.0%

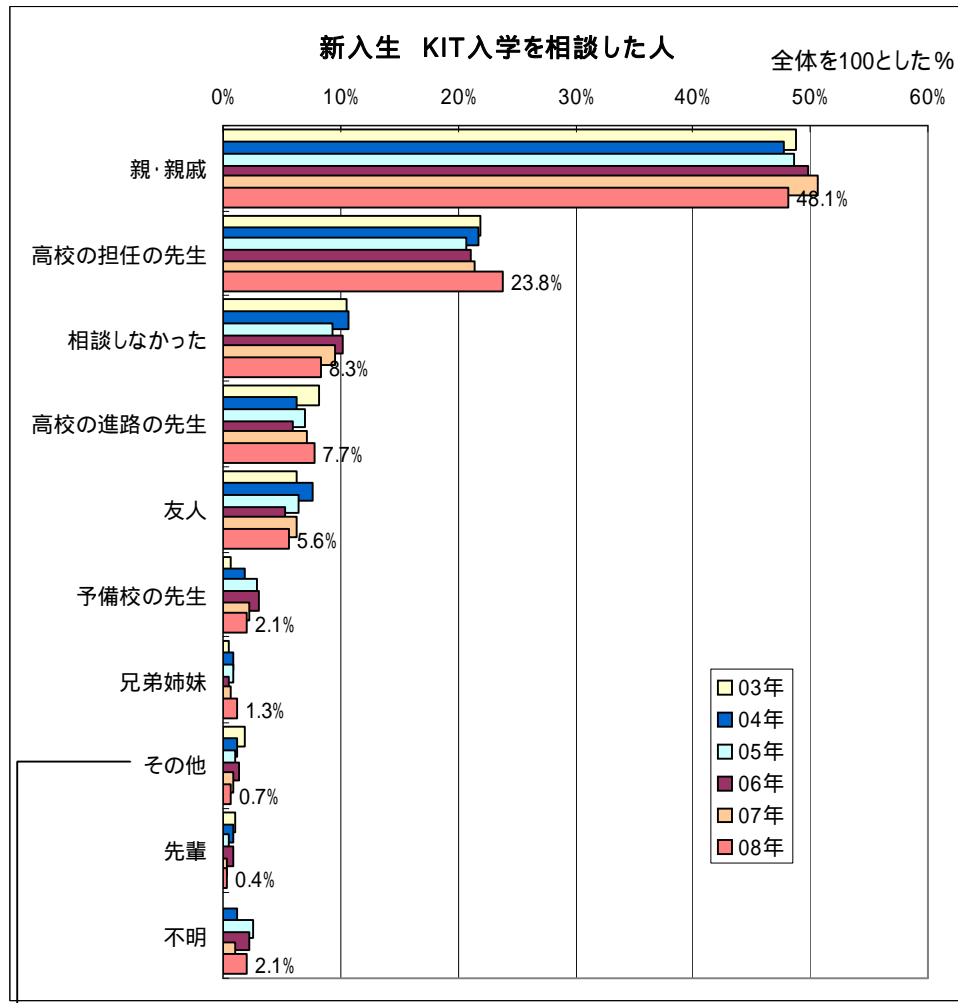
08年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	15	0.9%	東日本	北海道・東北
青森県	5	0.3%		
岩手県	2	0.1%		
宮城県	12	0.7%		
秋田県	11	0.7%		
山形県	14	0.8%		
福島県	9	0.5%		
茨城県	2	0.1%		
栃木県	13	0.8%		
群馬県	25	1.5%		
埼玉県	6	0.4%		
千葉県	6	0.4%		
東京都	8	0.5%		
神奈川県	3	0.2%		
新潟県	152	9.2%		
山梨県	9	0.5%		
長野県	62	3.8%	354	21.4%
富山県	213	12.9%	北陸	北陸
石川県	447	27.1%		
福井県	112	6.8%	772	46.7%
岐阜県	55	3.3%	東海	東海
静岡県	61	3.7%		
愛知県	50	3.0%		
三重県	52	3.1%		
滋賀県	36	2.2%	西日本	関西
京都府	33	2.0%		
大阪府	35	2.1%		
兵庫県	45	2.7%		
奈良県	7	0.4%		
和歌山県	15	0.9%		
鳥取県	9	0.5%		
島根県	8	0.5%		
岡山県	17	1.0%		
広島県	14	0.8%		
山口県	10	0.6%		
徳島県	9	0.5%		
香川県	4	0.2%		
愛媛県	8	0.5%		
高知県	0	0.0%		
福岡県	24	1.5%		
佐賀県	1	0.1%		
長崎県	1	0.1%		
熊本県	2	0.1%		
大分県	3	0.2%		
宮崎県	8	0.5%		
鹿児島	4	0.2%		
沖縄県	8	0.5%		
不明	7	0.4%		
合計	1652	100.0%	1652	100.0%

< 10-3 > KITの認知経路などに関して

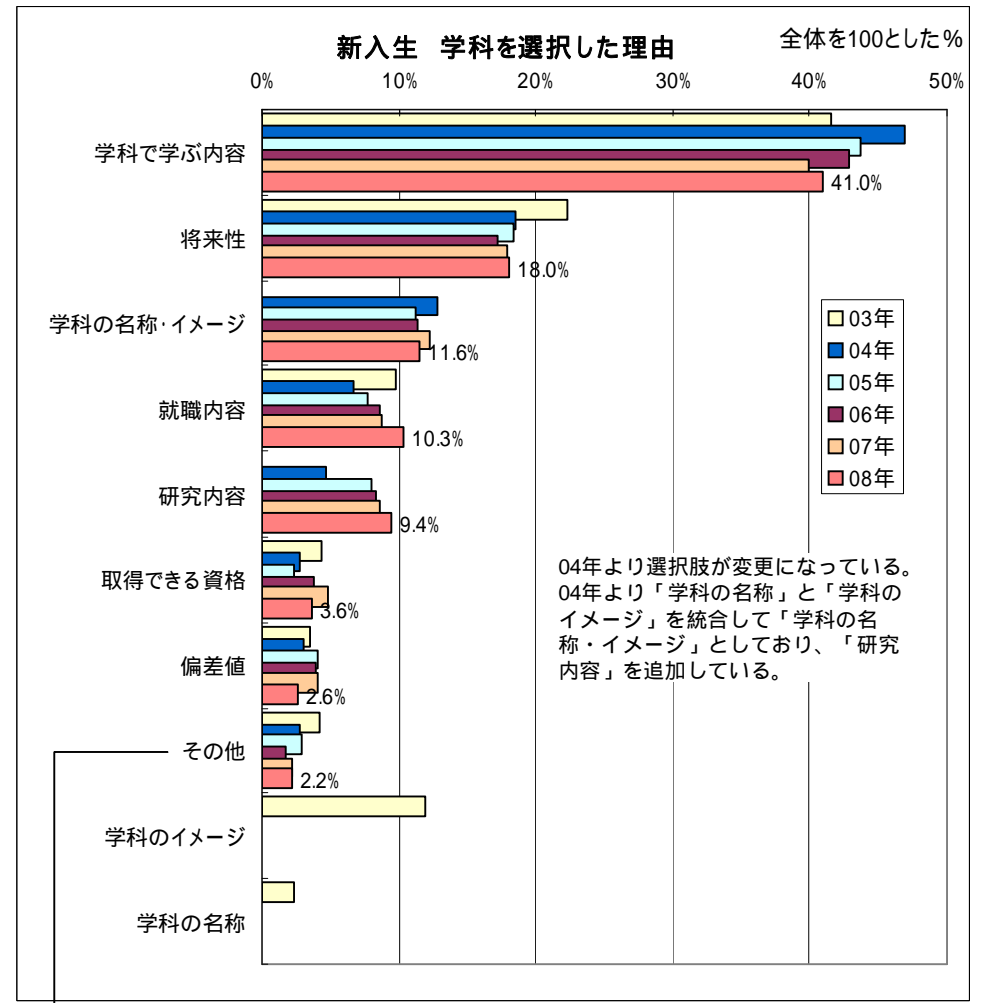
- KITを知った時期は、04年から07年までは「高校3年生」が減少し、やや認知時期が早まる傾向にあったが、今回は「高校3年生」が2.6ポイント増加、「高校2年生」が2.4ポイント減少しており、認知時期はわずかではあるが遅くなる傾向が見られた。
- KITを知るために使った媒体は「大学のパンフレット」が最も多く、次いで「KITホームページ」「高校にある資料」「高校の担任の先生」「キャンパス見学・オープンキャンパス」と続いていた。
- 時系列変化を見ると大きな動きはほとんど見られず、「KITホームページ」も03年から06年までは急激に増加していたが、現段階では利用率が安定したようであった。
- 自由記述を見ると「ブログ」「掲示板」なども挙げられており、KITの公式サイト以外(主に在學生)から情報を収集している事例も見られ、新たな情報収集の手段が広がっていることも分かった。
- 「KIT入学を相談した人」を見ると「高校の担任の先生」がやや増加して「親・親戚」が減少していたが、大きな動きではなかった。
- 「学科を選択した理由」もそれほど大きな動きではないが、「就職内容」と「研究内容」がやや増加しており、しっかりと学科のことを研究している様子が見えかけた。





その他の相談相手 (08年)

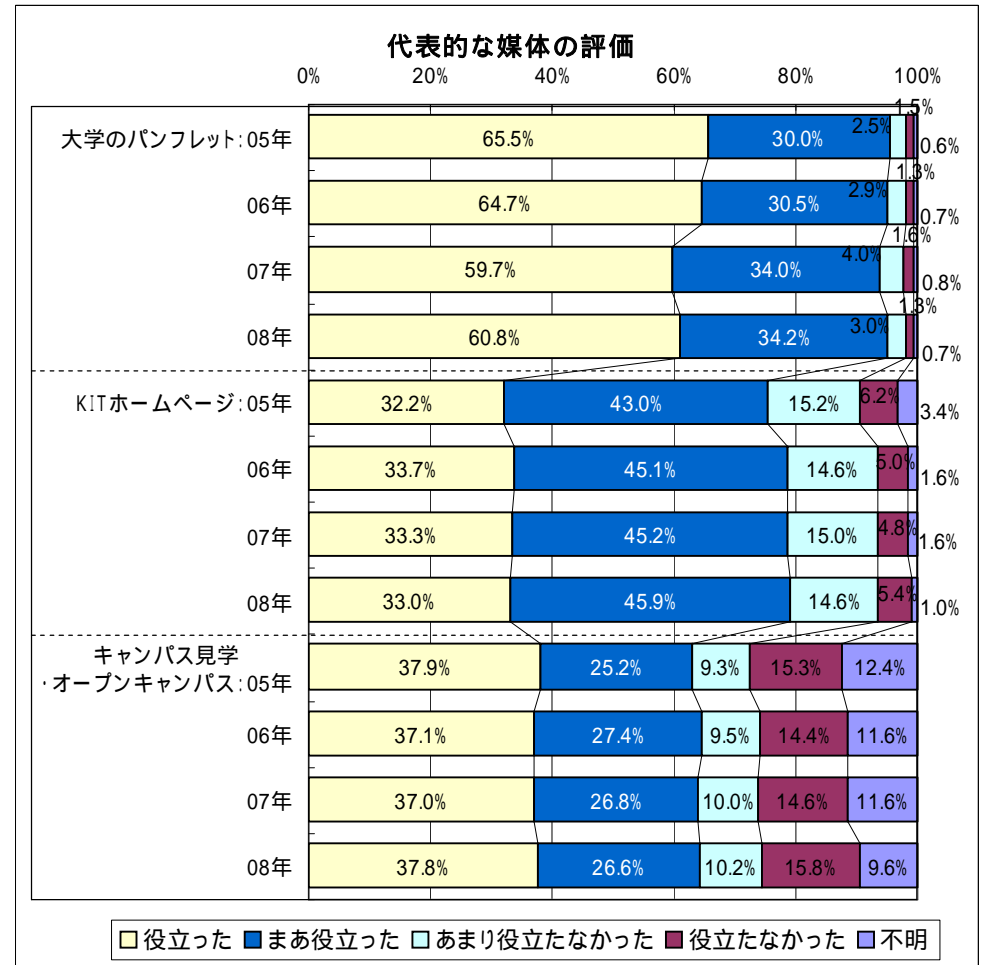
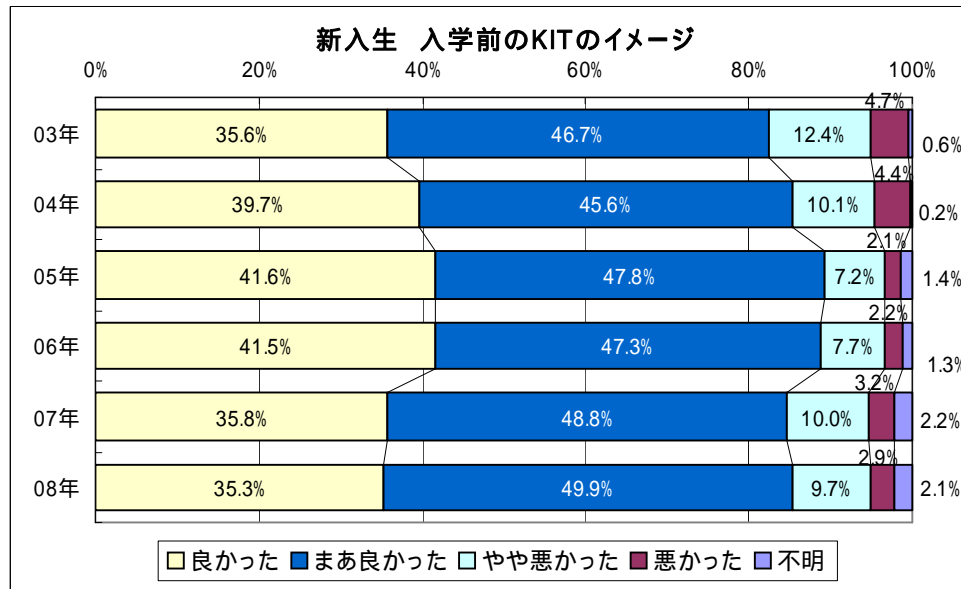
顧問の先生	塾の先生
高校の学年主任	知人
高校の情報科目の先生	部活動の先生
自分自身	



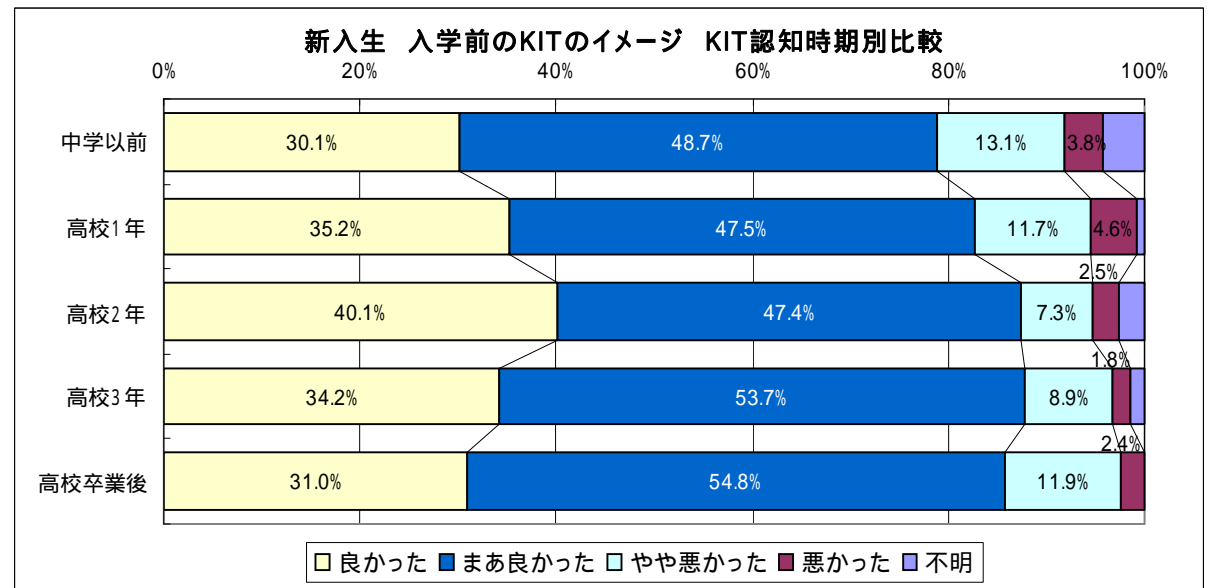
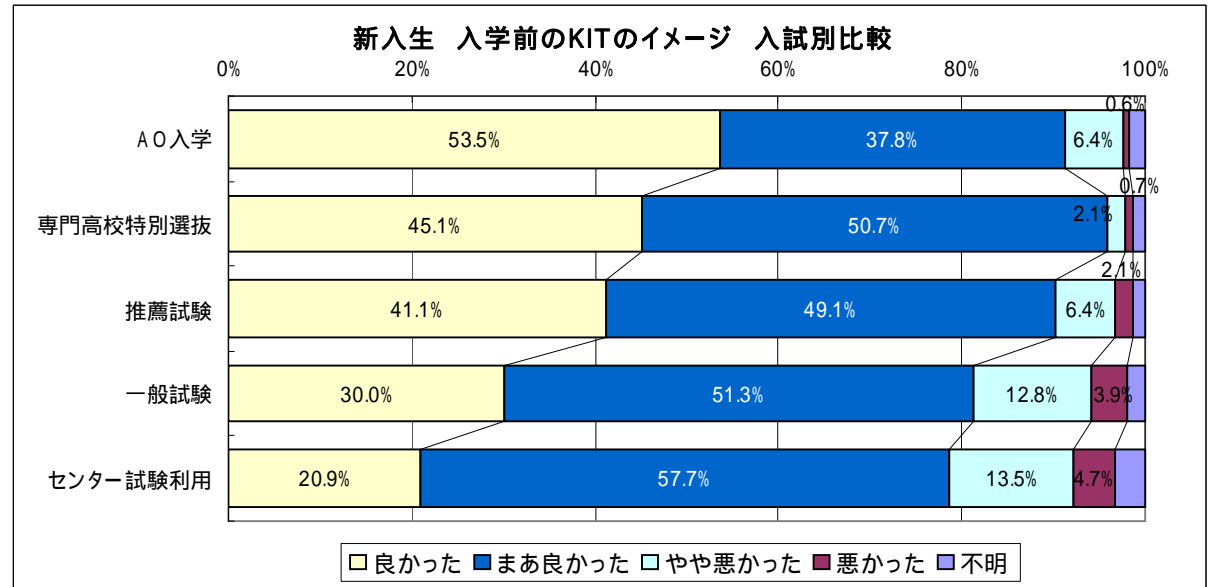
その他の学科選択理由 (08年)

ここのロボティクスに入りたかったから	今の私のスキルアップのため
もの作りが好きだから	自分はその専門を学びたかったから
学んでみたい先生がいたから	自由度、設備、生徒の自主性
学校の方針	消去法
機械に興味があったから	新学科
興味があった	親が土木系の職に就いていたから
建築士が夢だから	昔から夢が建築士だったから
工学部で一番偏差値が高いから	大学の教育目標にひかれまして

- 新入生の入学前のKITイメージは「良かった」が35.3%、「まあ良かった」が49.9%であり、合わせると85.2%は良いイメージを持っていた。
- KITのイメージの経年変化を見ると、05年、06年が最も良く、07年にわずかに悪くなっていたが、今回は少し良くなる結果となっていた。ただし、変化はそれほど大きくなく、常に8～9割の学生は「良いイメージ」を持って入学していると言える。
- 代表的な媒体の評価に関してはほとんど変化はなく、「大学のパンフレット」は95.0%が役に立ったと感じており、以前から大きな変化は見られず、最も役立った媒体だと評価されていた。次いで、「KITホームページ」は78.9%が役に立ったと感じており、06年から継続して良く評価されているようである。
- 「キャンパス見学・オープンキャンパス」は64.4%が役に立つと評価していた。これは他の2つと比べるとやや低いが、「不明」が1割ほどあるところを見ると、不参加者も多いと思われるため、今後、しっかりとした評価測定が必要と言える。

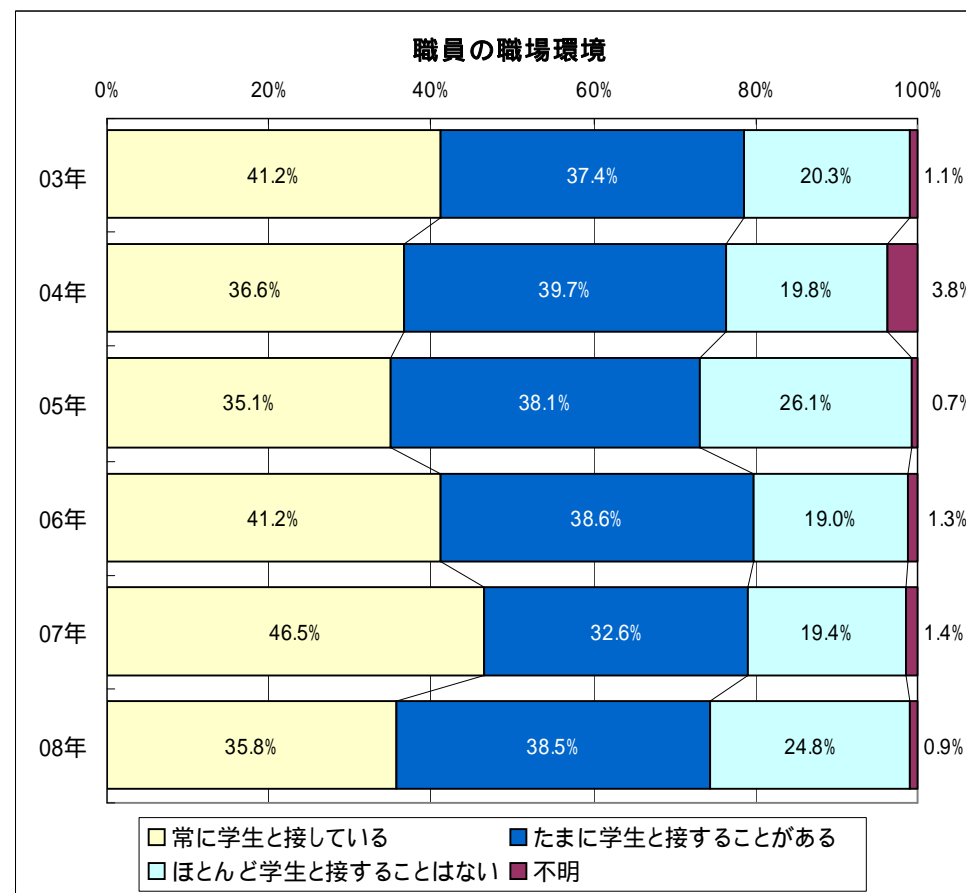
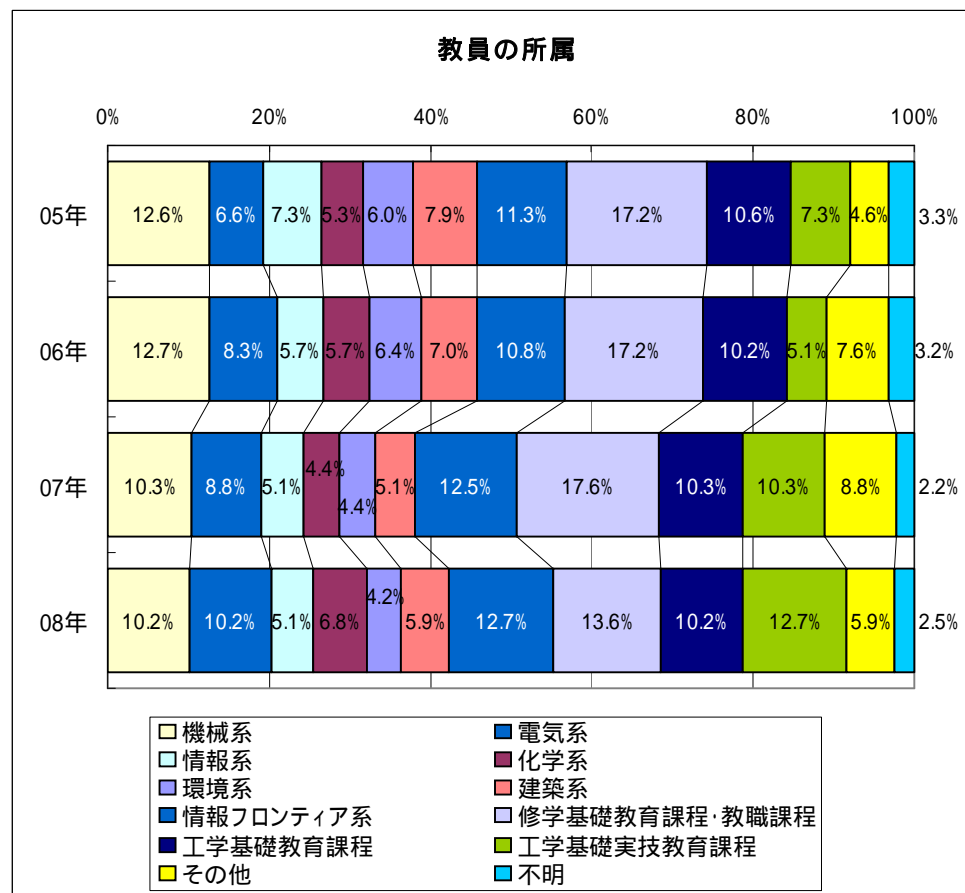


- 入試の種類別にKITのイメージを見たところ、「良かった」だけを見ると「AO入学」が最も評価が高かったものの、「良かった」と「まあ良かった」を合わせると「専門高校特別選抜」が最も高く、「AO入学」は手放しで評価しているわけではなく、一部にはやや厳しい評価をしている学生がいることが分かる。
- 入試の種類別で最も厳しい評価をしていたのは「センター試験利用」であったが、8割弱は良いイメージを持っており、それほど緊急の課題はなさそうであった。
- 認知時期による比較で「良かった」だけを見ると、「高校2年」でKITを認知した学生が最もKITに良いイメージを持っており、それよりも認知時期が早い層でも遅い層でも、イメージはやや悪くなっている。
- これらから見ると、「高校2年」でKITを知った学生は、「パンフレット」などで良い面を見て良いイメージができ上がっているが、それより以前に認知した層は「口コミ」や「地元の情報」でややイメージが良くない情報に接している可能性も考えられる。
- また、認知時期が遅い層におけるイメージの低さは進路決定の際に志望校のレベルを落とすなどの選択をした学生などが含まれるためではないかと思われる。

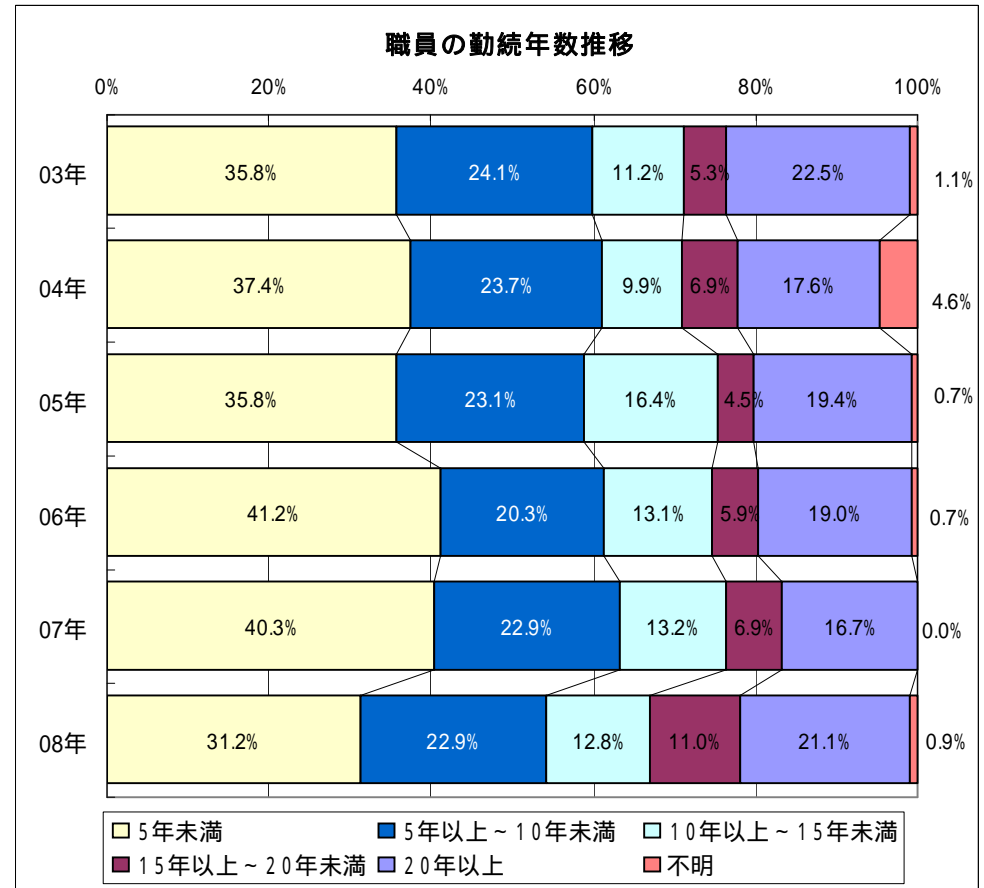
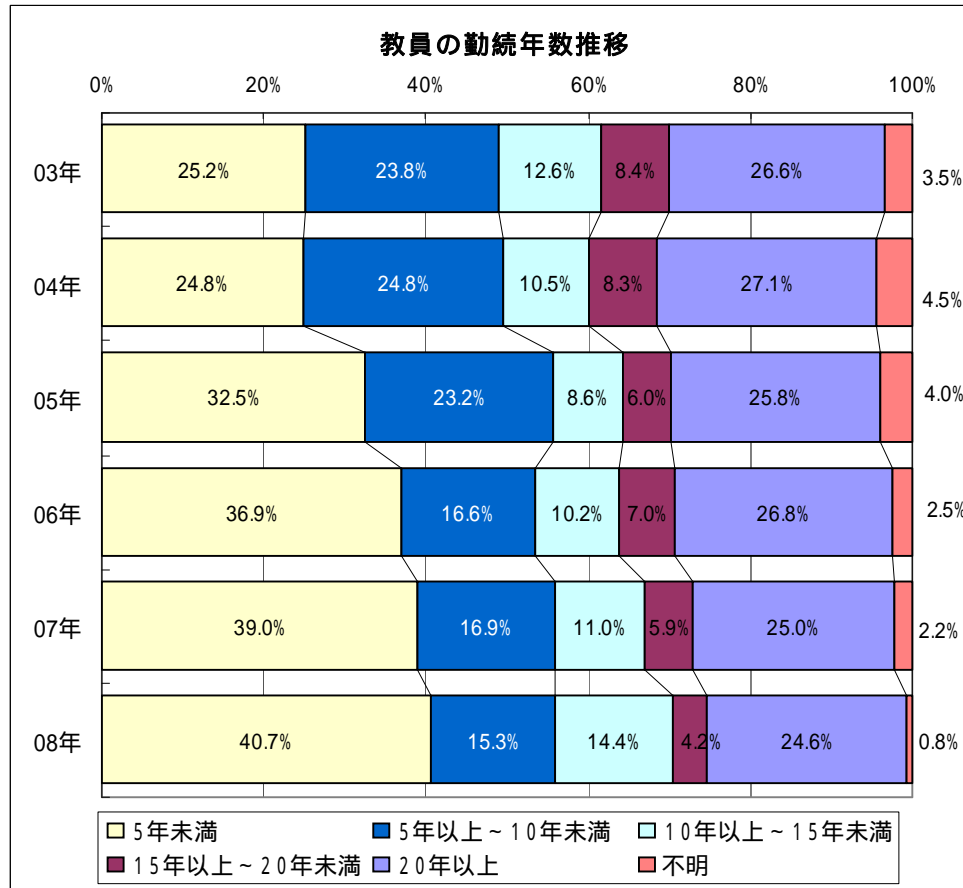


< 11-1 > 教職員のプロフィール

- 08年の教員の所属学部は「修学基礎教育課程・教職課程」が13.6%と最も多く、次いで「情報フロンティア系」「工学基礎実技教育課程」が共に12.7%、「機械系」「電気系」「工学基礎教育課程」が10.2%という割合であった。
- 以前からの変化を見ると「修学基礎教育課程・教職課程」の減少が目立っており、「電気系」「化学系」「工学基礎実技教育課程」が増加していた。
- 職員の職場環境では、「たまに学生と接することがある」が38.5%と最も多く、「常に学生と接している」が35.8%、「ほとんど学生と接することはない」が24.8%という順であった。
- 職員の職場環境を07年と比較すると、「常に学生と接している」が10.7ポイント低下し、「たまに学生と接することがある」「ほとんど学生と接することはない」が増加していた。



- 教員の勤続年数では「5年未満」が40.7%と最も多く、次いで「20年以上」が24.6%で続いており、勤続年数が長い層と短い層の両極に分かれる結果となっていた。
- 経年変化を見ると、04年から「5年未満」の層の増加が続いており、04年と比べると15.9ポイントと、大幅に増加していた。そして、「5年以上～10年未満」が徐々に減少しており、「10年以上～15年未満」は05年より徐々に増加、「15年以上～20年未満」はわずかに減少、「20年以上」はほぼ不変という結果であり、「5年未満」の若手が増加し、「20年以上」の層は固定しているという傾向がうかがえた。
- 職員の勤続年数では「5年未満」が31.2%と最も多く、次いで「5年以上～10年未満」が22.9%、「20年以上」が21.1%という割合であり、教員ほど勤続年数が短い層が多数を占めているという傾向は見られなかった。
- 経年変化を見ると、「5年未満」の層が9.1ポイント減少している点が特徴的であり、その代わりとして「15年以上～20年未満」と「20年以上」という勤続年数が長い層の割合が増加していた。ここで、勤続年数が長い層が増加していることを考えると、勤続年数が短い層が減少して全数が減ったために勤続年数の長い層の割合増加が起こっているものと考えられる。

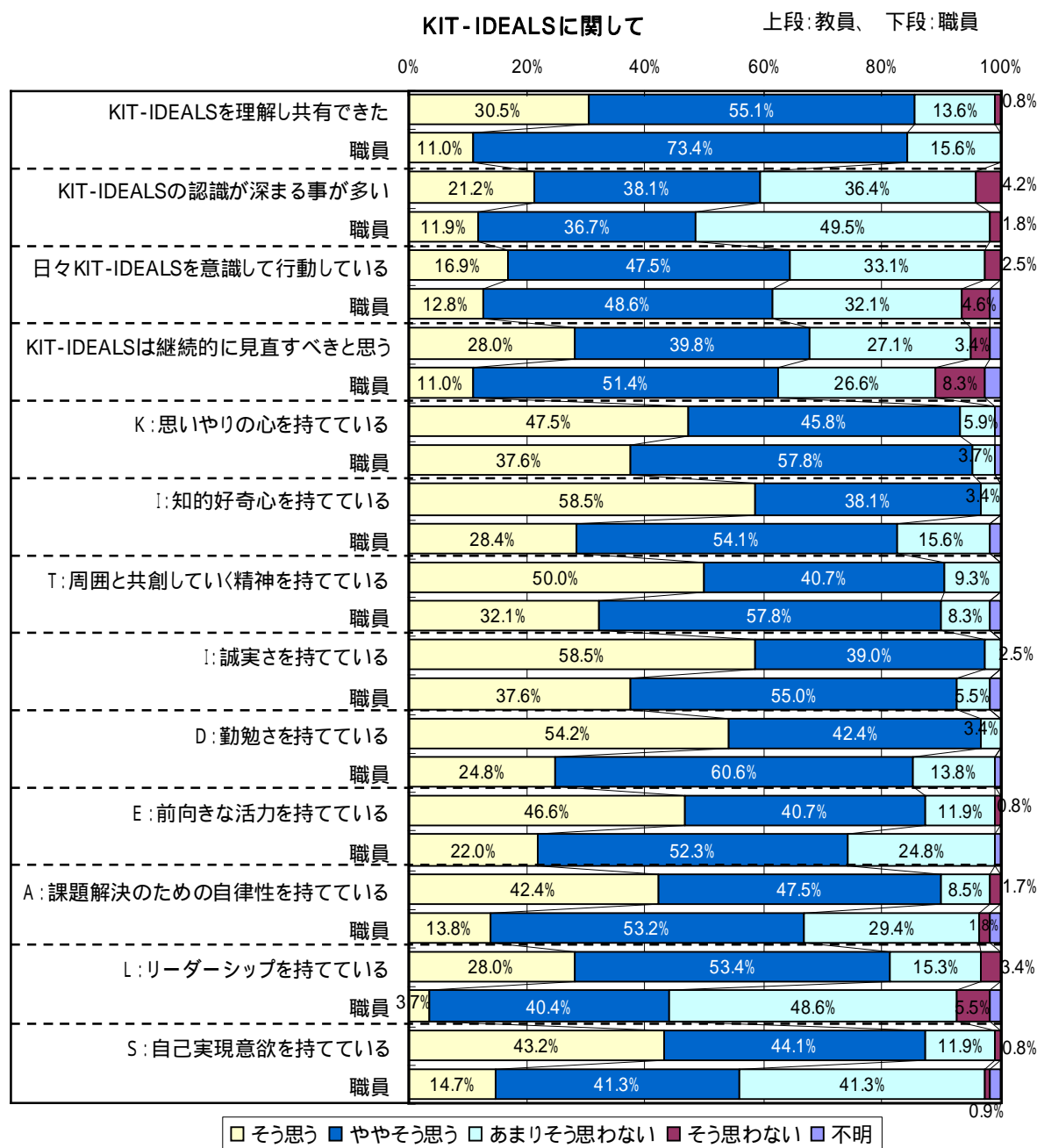


< 11-4 > KIT-IDEALSに関して

- 教員自身のKIT-IDEALSに対する考え方を聞いたところ、「KIT-IDEALSを理解し共有できた」という意見は「教員」で85.6%、「職員」で84.4%であり、8割以上はKIT-IDEALSを意識して過ごしているようであった。
- 「KIT-IDEALSは継続的に見直すべき」という意見は「教員」で67.8%、「職員」で62.4%であり、6割以上は見直した方が良く考えていた。
- KIT-IDEALSの個別の項目に対する意識に関しては、「K:思いやりの心を持っている」「T:周囲と共創していく精神を持っている」「I:誠実さを持っている」の3つは「教員」「職員」とも意識が高かった。
- 自己評価が低めであったのは「L:リーダーシップを持っている」「S:自己実現意欲を持っている」であるが、いずれも「職員」の低さが目立っていた。
- 「教員」と「職員」の意識を比べたのが下記の表であるが、これを見ると「K:思いやりの心を持っている」は「職員」の方が高かったが、その他は全て「教員」の自己評価が高いという傾向が見られた。

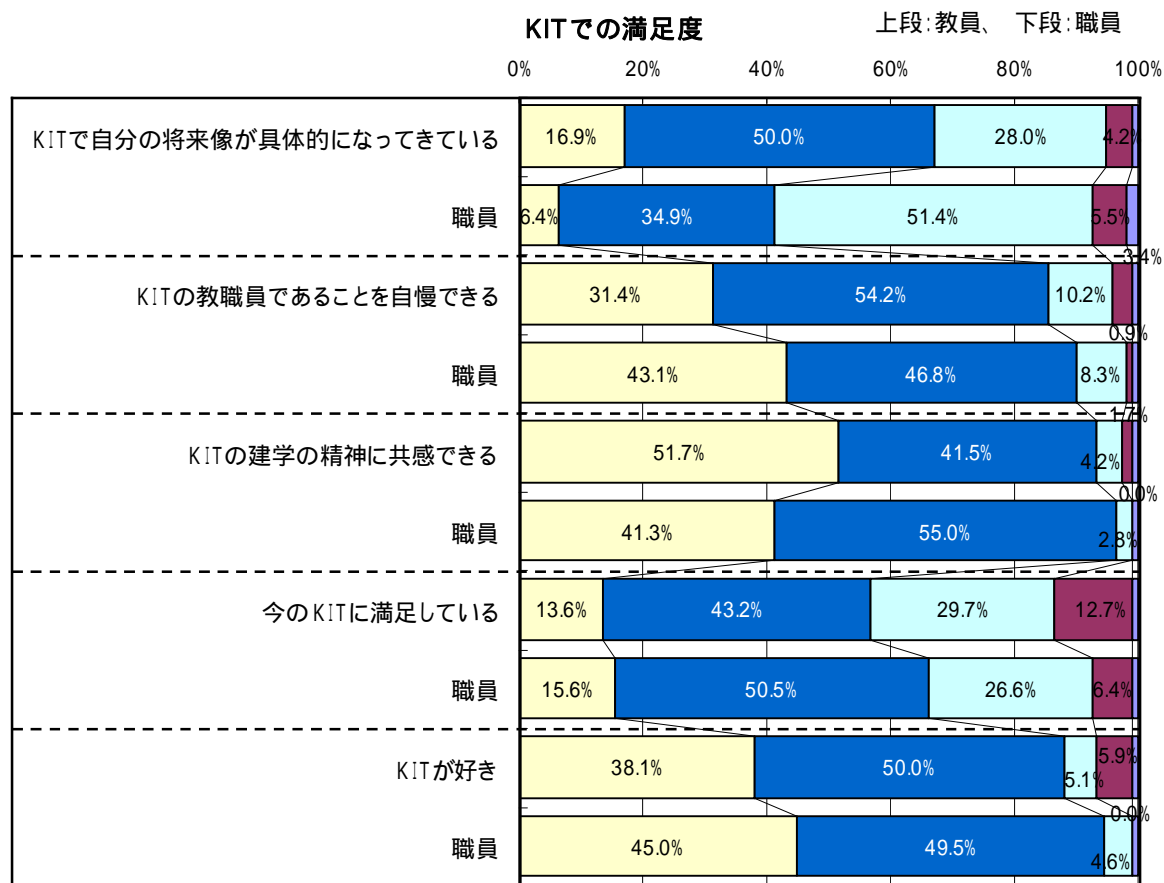
教員と職員の意識の差（「そう思う」と「ややそう思う」の合計比較）

	教員	比較	職員
KIT-IDEALSを理解し共有できた	85.6%	>	84.4%
KIT-IDEALSの認識が深まる事が多い	59.3%	>	48.6%
日々KIT-IDEALSを意識して行動している	64.4%	>	61.5%
KIT-IDEALSは継続的に見直すべきと思う	67.8%	>	62.4%
K:思いやりの心を持っている	93.2%	<	95.4%
I:知的好奇心を持っている	96.6%	>	82.6%
T:周囲と共創していく精神を持っている	90.7%	>	89.9%
I:誠実さを持っている	97.5%	>	92.7%
D:勤勉さを持っている	96.6%	>	85.3%
E:前向きな活力を持っている	87.3%	>	74.3%
A:課題解決のための自律性を持っている	89.8%	>	67.0%
L:リーダーシップを持っている	81.4%	>	44.0%
S:自己実現意欲を持っている	87.3%	>	56.0%



< 11-5 > KITに対する満足度に関して

- KITの満足度に関しては、「教員」は56.8%が満足、「職員」が66.1%が満足と回答しており、「職員」の方がやや満足度は高く、全体としては約6割が満足していた。
- 「KITが好き」「KITの建学の精神に共感できる」「KITの教職員であることを自慢できる」に関しては、ほぼ9割以上が肯定的な意見であり、3つの項目ともわずかではあるが「職員」の方が肯定意見が多かった。
- 「KITで自分の将来像が具体的に becoming している」は「教員」の方が肯定的な意見が多めで66.9%が肯定的意見であり、「職員」の41.3%を大きく上回っていた。
- これらを見ると、「教職員共に全体の6割がKITに満足しており、9割はKITが好きだと答えているが、わずかに職員の方が満足度、好意とも高かった。しかし、教員は将来像が具体的に becoming している割合が約7割であり、職員を2割ほど上回っていた」とまとめることができる。



教員と職員の満足度の差 (「そう思う」と「ややそう思う」の合計比較)

	教員	差	職員
KITで自分の将来像が具体的に becoming している	66.9%	>	41.3%
KITの教職員であることを自慢できる	85.6%	<	89.9%
KITの建学の精神に共感できる	93.2%	<	96.3%
今のKITに満足している	56.8%	<	66.1%
KITが好き	88.1%	<	94.5%

「将来像」だけは教員の方が上回っていたが、他は職員のスコアの方が高かった

継続的な改善活動のために!
在学生・卒業生・教職員

2008 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

発行日	平成20年8月20日
発行者	学校法人 金沢工業大学
調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁

再生紙を使用しています